

令和3年度
上宮太子高等学校
学校評価関係

1. 規定
2. 各部署の年間計画及び重点目標
3. 各部署の中間報告
4. 各部署の総括
5. 授業アンケート分析
6. 学校評価に関する報告書
7. 学校関係者評価に関する報告書

上宮太子高等学校 学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日 制定

令和 4 年 6 月 24 日 改定

(趣旨)

第 1 条 この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)

第 3 条 学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条 自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。

2 学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)

第 5 条 学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、教務部学校評価係を委員とする学校評価委員会を設置する。

2 学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価係は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)

第 6 条 学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。

2 自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)

第7条 学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。人数は5名程度とする。

- (1) 保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
- (2) 学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員
- (3) その他、必要に応じて学校が選出する委員

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。

4 学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。

5 学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。

6 学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第7条第1項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

7 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)

第8条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)

第9条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。

(事務の所管)

第10条 この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附 則

1 この規定は、平成23年3月18日から施行する。

2 第5条を、校務分掌の一部見直しにより令和4年6月24日に改訂する。

3 この改正規定は、令和4年7月1日より施行する。

令和3年度
学校評価に関する
各部署の年間計画及び重点目標

上宮太子高等学校
学校評価委員会

部署名	教務部	担当者	田中 良和
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度からの新教育課程導入における校内整備 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携 ・ 考査規定・5段階基準等の教務内規の再検討 ・ コロナ禍においても充実した教育活動・行事の実施に向けた企画・運営・検討 ・ コロナ禍に対応したオンライン授業確立のために ICT 教育推進室との連携と校内整備
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教務運営システムの整備・効率化 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 教務運営システムの整備・効率化</p> <p>① 学校行事の着実な実施と改良 ※入念な準備, 実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等</p> <p>② 教務各係の業務内容と資料の点検・整備</p> <p>③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知</p> <p>④ 各部署との連携強化による業務効率化</p> <p>(2) 有効な指導体系の継続検討</p> <p>⑤ 新カリキュラム導入に向けた校内整備</p> <p>⑥ ICT の導入による新しい教授法の検討</p> <p>(3) 国際理解教育の推進</p> <p>⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく</p> <p>(4) オンライン授業の準備</p> <p>⑧ コロナ禍での臨時休校時も学びを止めないために ICT 教育推進室と連携の上で整備を進める</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	生徒指導部	担当者	米田文昭
-----	-------	-----	------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
教育相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする。 1 教職員への啓発・発信 2 スクールカウンセラーと教職員との連携 3 教育相談室の活用
生徒会	1 生徒会活動の活性化 2 委員会活動の活性化 3 広報活動 4 生徒会活動の研究 5 インターアクトクラブの活動
生活指導	1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 2 道徳意識, 規範意識の向上 (頭髪服装検査強化) 3 いじめ・不登校, 配慮を要する生徒への取り組み 4 生徒の愛校心向上 5 制定品見直し
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
生徒相談	笑顔であいさつがあふれる学校づくり
生徒会	生徒主導による各種活動
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
教育相談 1. 研修会への参加、そして報告 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布 2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催 3. 保健室での相談を教育相談室へ移行 担任・学年を中心に取り組む 生徒会 1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等） 2. 委員会活動の活性化 3. 広報活動（上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加） 4. クラブ生を主体とした学校の活性化 5. インターアクトクラブの活動活性化 生活指導 1. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取組みの実施 2. HRを使用し、頭髪服装検査を実施し、生徒心得遵守を促す 3. 「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校, 配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討 4. 「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映 5. 鞆、女子スラックスの検討			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： { **A** 予定通り進んだ / 顕著に成果があった **B** ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
} **C** あまり進んでいない / あまり成果がでていない **D** 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	進路指導部	担当者	漁野篤史
-----	-------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
III. 主体性を育む教育	IV. 戦略的改革

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
I. 進学実績の目標達成 (高校3年) a. 国公立大学16以上合格 b. 関関同立15以上合格 c. 産近甲龍70以上合格 II. 基礎学力の向上 (高校1年・2年) d. 進研模試偏差値52以上を学年の2割以上 e. 進研模試偏差値46以上を学年の5割以上 f. 模試の事前・事後指導、結果分析 III. 主体性を育む教育 g. 探究活動の推進 (高校1年・2年) h. 家庭学習の推進 IV. 戦略的改革 i. 生産性の高い進路指導体制構築 j. アクティブラーニングの研究と啓蒙			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	入試対策部	担当者	佐々木 哲也
-----	-------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 受験者数確保に向けての広報活動</p> <p>(2) 効果的な広報物を制作・活用</p> <p>(3) 情報の収集・共有化</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p style="text-align: center;">受験者数の安定的確保</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 受験者数確保のための活動</p> <p>受験者数を増やすために、多くの保護者、生徒、塾・中学の先生に、上宮太子の名前と良さを知ってもらうこと。</p> <p>① 特に主要な公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。</p> <p>② 受験生や保護者に直接的にアプローチをする。そのために、中学・塾主催の生徒・保護者対象説明会に参加させてもらえるよう働きかける。また、地域限定の説明会を行う。</p> <p>③ 毎週土曜日に ZOOM における Online 説明会を4月当初から実施することで、多くの生徒に知ってもらい、その後個別に学校見学に来てもらえるよう働きかける。</p> <p>(2) 効果的な広報物を制作・活用</p> <p>上宮太子への興味関心を持ってもらうには、ホームページやパンフレット、リーフレットなどが大切である。広報係との連携のうえ効果的な広報物を制作し募集活動に活用する。</p> <p>① 三つ折りリーフを有効活用する。</p> <p>② ICT ツールを活用した広報活動を行う。</p> <p>③ 上宮太子の日常の様子や、生活を視覚的に体感できるような動画を作成して、学校の良さを体感してもらう。</p> <p>(3) 情報の収集・共有化</p> <p>世間のニーズに合わせて、本来の上宮太子の良さをアピールし、効果的な広報活動をする必要がある。</p> <p>情報収集と情報の共有化を図り、教職員一丸となって広報活動が行えるようにする。</p> <p>① 校外で知り得た情報を定期的に先生方へ伝え、校内では生徒たちの様子や、日常における些細な行動などの情報などもこまめに収集し塾・中学に伝え、面倒見の良さをアピールする。</p> <p>② 上宮高校や上宮学園中学校との情報共有を発展させ、3校で連携をとり、学園全体で広報活動を行う。</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： { A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない }

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	国語科	担当者	福田和憲
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各担当者による、教授法および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽 ICT機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索 生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通テスト平均点 文系7割5分、理系6割5分以上 国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした授業形態の確立

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1、授業改革による生徒の読解力・表現力の向上</p> <p>① 生徒の学習定着をはかるための方策研究</p> <p>② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み</p> <p>③ 職員同士での国語力向上についての意見交換</p> <p>2、各学年での学習指導内容の研究</p> <p>①特進Ⅰ・Ⅱ類、高3特進コース</p> <p>模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成 難関私立大学への進学を視野に入れた実力養成</p> <p>②総合進学コース</p> <p>→推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 新学習指導要領に向けた授業改革 →Find!アクティブラーナーの積極的な活用、 アクティブラーニングの研究、授業への導入 →ロイロノートを軸とした、Ipad活用法を研究した授業展開</p> <p>3、教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック</p> <p>① 予備校・大学主催の研修会などへの積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ</p> <p>② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催</p> <p>③「論理エンジン講座」「記述講座」「新入試制度研究」をはじめ、 教科内の教員による勉強会実施</p>			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	社会科	担当者	前田 良仁
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 授業の厳正化と社会科としての強化</p> <p>(2) 教科会の活性化</p> <p>(3) 入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題)</p> <p>(4) 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。</p> <p>②社会科の授業が好きになる工夫をする。</p> <p>③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす</p> <p>④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80% を上回る。</p> <p>⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。</p> <p>⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。</p> <p>(2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。</p> <p>②授業見学会実施</p> <p>③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。</p> <p>(3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。</p> <p>②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。</p> <p>(4)①新カリキュラムへ向けての研鑽</p> <p>②ICT の活用の在り方を研究していく。</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	数学科	担当者	今西 和美
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増強 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の厳正化 <ol style="list-style-type: none"> ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 <ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③能力に応じた補習、講習の実施 ④大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ⑤特進Ⅰ類コースの国公立大合格率向上 ⑥特進Ⅱ類コースの関関同立大学合格率向上 ⑦総合進学コースの一般入試合合格率向上 (指定校・学校推薦型入試を有効活用するとともに、一般入試に対応できる学力をつける) 3. 教科会の活性化 <ol style="list-style-type: none"> ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 <ol style="list-style-type: none"> ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、教授法を学び教科会で検討、導入していく。 ②新学習指導要領によるカリキュラム構成, 評価方法を研修し、各コースの最適な授業実践計画を検討する。 			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	理科	担当者	石川 修二
-----	----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標 昨年度までの目標から継続し、以下の2つを重点目標とする。</p> <p>① 指導力を向上し、授業内容を充実する。 ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ICT機器で扱う教材の研究。</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 指導力を向上し、授業内容を充実する</p> <p>a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践を行う。 c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材を研究し、新課程研究を進める。 d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。 e 観点別学習状況の評価基準を検討する。</p> <p>② 大学入試に対応できる学力をつけさせる</p> <p>f 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 g 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。 h 生徒それぞれの志望に寄り添う指導を実践する。</p>			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	英語科	担当者	今塩屋誠
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p style="text-align: center;">1, 2年生にはオンライン英会話やロイロノートによる音声指導を行い、英語に興味を抱かせる。</p> <p style="text-align: center;">3年生には予習・復習を徹底させ、小テストなどで定着度を測り、大学入試に備えさせる。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p style="text-align: center;">今年度より1年生の英Cで4技能を意識した授業に変えていく</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 英語力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習・復習をほぼ毎日課して、ロイロノートを利用して点検する。 ・ 辞書を利用する。 ・ 速読教材を使い、共通テストの準備をする。 <p>② オールイングリッシュ授業への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1, 2年生はオンライン英会話を利用して speaking Listening の力をつける。 ・ 1年生のコミュニケーション英語の授業でオールイングリッシュでの取り組みを徐々にを行い、音声活動に重点を当て、その評価に平常点に別枠で10点分を配当する。 			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	保健体育科	担当者	鶴田 充功
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。 ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。 ・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新興感染症への対応 (コロナウイルスに対する知識、予防方法、罹患時の対応など)

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない	B		
集団行動の様式の習得と実践 (静と動) 挨拶・ 姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	B		
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B		
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	B		
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	A		
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	B		
ICTの導入 iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践していく	A		
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED使用方法	B		

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	芸術科	担当者	阪口 雅則
-----	-----	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 行事への協力、取り組み。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 3. 評価、評定の方法について協議する。

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 行事への協力、取り組み。 ① 聖徳書道展への協力。 ② 芸能鑑賞等、教務部との連携。 2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽 演奏(器楽、声楽)の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現(描写、着彩)と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。 3. 評価、評定の方法について協議する。 ① 平常点の割合の研究、分析等を行う。			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	家庭科	担当者	植田 梨絵子
-----	-----	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 家庭科に対する学習意欲の向上</p> <p>② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成</p> <p>③ 男女共同参画社会を意識した教育推進</p> <p>④ 教材の整備</p> <p>⑤ 実践的授業の実施計画</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・興味関心を高める教材の選定・授業の工夫 (プレゼンテーションによる評価方法の確立など)</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①家庭科に対する学習意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容を深め、関連した資料や情報を添付する。(本物志向の展開: 本物を見て触らせる) ・未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科にも通じるような授業を展開する。 <p>②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 <p>③男女共同参画社会を意識した教育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 <p>④教材の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見だし展開できる問題解決的な教材を検討する。 ・情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 <p>⑤実践的授業の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりは行程が重要であるため、構造、材料・製作、仕上げを、計画的に実施する。 ・全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。 			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	情報科	担当者	須藤 秀裕
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① より良い授業内容にするための検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習効果の高い実習課題の検討 ・ 座学で扱う内容の再構成 <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング教育に関する情報収集 ・ カリキュラムを含めた授業計画案の検討 <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加 <p>④ 大学入試科目への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テストに関する情報収集 ・ 共通テストへの対策 			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	宗教科	担当者	柴田 直毅
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①校訓、学順の理解 ②授業内容のさらなる充実 ③宗教行事の理解と実践</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>ICTを活用した授業の実践、自ら考えを表現できる力の育成</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 校訓、学順の理解</p> <p>(1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。</p> <p>(2) 礼儀作法について学習、実践をする。</p> <p>② 授業内容のさらなる充実</p> <p>(1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。</p> <p>(2) 生徒の理解に適した授業を展開する。</p> <p>③ 宗教行事の理解と実践</p> <p>(1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。</p> <p>(2) 生徒参加による宗教行事の実践をする。</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	第1学年	担当者	宮本卓弥
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 学習面における基礎基本の徹底理解 (2) 基本的生活習慣の確立 (3) 家庭と学校および学校組織内の意思疎通</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>①個々の能力の最大化させ、その能力を目的の進路に向けて最適化し、希望の進路を獲得する。 ②自身に誇りを持てるよう、何事もやり抜く力を育てる。</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 学習面における基礎基本の徹底理解 将来の希望進路達成のため、学習に取り組む姿勢や学習内容の理解のため以下の3点の指導を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真摯な授業態度 ・ 課題提出の徹底 ・ 家庭での学習習慣 <p>(2) 基本的生活習慣の確立 物事に取り組む真摯な態度と礼節を重んじる心を養うため以下の3点の指導を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時や日常生活における挨拶 ・ 正しい言葉遣い ・ 正しい着装 <p>(3) 家庭と学校および学校組織内の意思疎通 子どもたちが育っていく環境として、家庭や学校、クラスや学年、クラブなど数多くあげられる。それぞれの環境同士が共通認識と密な連携を取れるよう以下の3点の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭との情報共有 ・ 担任間、学年間での情報共有 ・ 学年間、その他組織との情報共有 			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	第2学年	担当者	八内字弘
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1)「正思明行」、学順の実践と人間力の向上</p> <p>(2)生徒・保護者・教員の意味疎通</p> <p>(3)学力向上(特に英語、数学、国語)のための方策と学習習慣の確立 【目標: 特進Ⅰ類コース(偏差値60以上)、特進Ⅱ類コース(偏差値55以上)、総合進学コース(偏差値50以上)】</p> <p>(4)ICT機器を利用した教授法の研究・推進</p> <p>(5)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意味疎通</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>(1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践</p> <p>(2)社会の一員であることの意識の定着(デジタル社会を生き抜く力の養成)</p>

2. 令和3年度の実行内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導</p> <p>②思い出に残る修学旅行の企画と充実</p> <p>③学年企画による校外学習の実施</p> <p>(2)①家庭と学校との綿密な連携</p> <p>(3)①勉強に集中できる学級の雰囲気作り</p> <p>②毎日の家庭での学習の習慣の確立</p> <p>③定期考査前の補習の実施</p> <p>※総合進学コースの目標</p> <p>①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50を目指す</p> <p>※特進Ⅱ類コースの目標</p> <p>①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値55を目指す</p> <p>※特進Ⅰ類コースの目標</p> <p>①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値60を目指す</p> <p>(4)①iPadでの課題配布</p> <p>②ICT機器の積極的な活用による授業展開</p> <p>(5)①学年担当者会議の可能な限りの実施</p> <p>②日常の会話による生徒の情報交換</p>			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	第3学年	担当者	茶田 昌蔵
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 生徒・保護者・教員的意思疎通 ② 考える力を養う ③ 家庭学習の定着、学力の向上 ④ 希望進路実現に向けてのサポート</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p>

2. 令和2年度取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 家庭との連絡を密にして、クラス担任が知り得た情報を、学年団教員全員が共有し同じ方向性を持って生徒の指導にあたる。</p> <p>② 自らで正しく物事を考え、自分の将来に向けてどのように進むべきか、明確にさせる。</p> <p>③ ・限られた時間の中での授業内容や提出課題、早朝や補講習の効果的な実施方法を工夫する。 ・総合型選抜、学校推薦型選抜等で合格が内定した生徒に対するケアや、大学入学共通テストや一般選抜に向けて勉強する生徒に対する支援を両立させる。</p> <p>④ ・二者面談を積極的におこない、生徒の現状を的確に把握し、担任、学年団での情報の共有をしながら生徒を的確な進路に導いていく。 ・模試を有効的に活用し、的確な進路指導を行う。 ・総合進学コースの生徒についても、最後まで諦めない強い気持ちを持たせて受験に望ませる。 ・特進コースは国公立大学に目標を定め、大学入学共通テストで高得点につながるよう指導をする。 ・進路指導部と連携をとり、個々の生徒の対応に当たる。</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	人権教育	担当者	谷川 聡
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (短期目標) ※本年度に取り組む目標
① 学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成 ② 育てる人権教育の実践 ③ いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 学校生活の中で人権問題(友達との関係、クラブ活動など)を認識する。

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS, インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する ②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する ③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	保健管理	担当者	西巻 裕子
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践 3. 健康相談活動における心のケアと各分掌と連携、情報の共有化 4. 学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>学校医をはじめとする学校保健委員会の組織化、推進化を図る。</p> <p>Health care room (保健室のHP) 等で情報発信に努め、将来へ繋ぐ予防教育を実践する。</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルス感染症等の学校感染症の予防と発生時の迅速な対応、学校保健情報の集約 ② 救急処置の迅速な対応とけがの予防教育(数値化) ③ 配慮を必要とする生徒の支援について、個別のニーズに応じた支援のあり方を示し、共通理解を図る <p>2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルス感染症やがん教育等の予防教育 ② 本校が抱える心身の健康課題を見出し、個別・集団的保健指導の実践、将来に影響を及ぼす健康問題を研究 ③ 保健室ホームページの充実と関係医療機関との連携 <p>3、健康相談活動における心のケアと各分掌と連携、情報の共有化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心の問題を的確に把握するために生徒一人一人への声かけと全教職員との情報交換を密に図る ② SCと教育相談、関係職員との連携、共通理解を図る ③ 不登校、いじめ事象等の迅速な把握と減少をめざす <p>4、学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の組織的運営の確立、臨時委員会の適宜開催 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート(学級への健康管理や啓発活動、心身の健康に関する探究・学び合いと情報発信、評価につなげる) 			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった **B** ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない **D** 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	図書教育	担当者	植田 梨絵子
-----	------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①図書室の運営管理の充実</p> <p>②書籍の充実</p> <p>③読書活動の推進</p> <p>④利用生徒数の向上</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・蔵書管理システムの有効活用と蔵書登録・管理の徹底</p> <p>・レファレンス業務の向上</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①図書室の運営管理の充実</p> <p>(1) 開館時間の安定</p> <p>(2) 館内内の整備</p> <p>②図書の充実</p> <p>(1) 購入図書の選定および購入</p> <p>(2) 希望図書への配慮</p> <p>(3) 蔵書の整理</p> <p>③読書活動の推進</p> <p>(1) 読書の啓発</p> <p>(2) 図書館だよりの定期的な発行</p> <p>④利用生徒数の向上</p> <p>(1) 図書室利用の推進</p> <p>(2) 委員会の活動の推進</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	広報	担当者	田中 良和
-----	----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月のホームページリニューアルに伴う円滑な移行と掲載内容の精査。 ・ブログの更新回数やSNSを活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。(道路沿いの横断幕、バス側面の広告等) ・入試対策部及び新しい広報依頼業者との連携強化。
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。 ・今後の広報戦略における立案を図る。

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 本校ホームページの更なる改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報依頼業者と連携を図り、新しいホームページが利便性の高い状態を維持する。 			
<p>(2) ブログの更新回数増加とアップ内容の精査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのアップ内容を精査し、日常的に学校の情報を発信することを目指す。 			
<p>(3) 近隣地域に向けた広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。 			
<p>(4) SNS活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせた広報活動を追究する。 			
<p>(5) 学園財政を鑑み、広報費用の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実績をもとに費用対効果の高いものを選定し広報活動を行う。 			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	業務推進室	担当者	須藤 秀裕
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 共有文書等のデータによる活用 ② 個人情報の管理の徹底 ③ 環境の充実 ④ 業務軽減への方策
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ⑥ クラウドサービスの活用

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 共有文書等のデータによる活用 ・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用 ② 個人情報の管理の徹底 ・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・ 個人データの管理の徹底 ③ 環境の充実 ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理 ・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底 ④ 業務軽減への方策 ・ 分掌内での情報の共有化の徹底 ・ 効率的な業務の分担の実現 ・ 作業マニュアルの改訂 ⑤ クラウドサービスの活用 ・ クラウドサーバの利用 ・ 校務システムの研究			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	ICT 教育推進室	担当者	福田 和 憲
-----	-----------	-----	--------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iPad の 1 人 1 台使用環境の整備 ・ デジタル・シティズンシップ教育の開始 ・ ロイロノート、Google、Microsoft のプラットフォーム整備 ・ 先生方の iPad 使用の機運を高め、日常的に iPad が動く状況を整備
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科での独自のアプリ使用を含め、iPad のクリエイティブな使用が進む状況を構築

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1 iPad の授業内での使用環境を整える</p> <ul style="list-style-type: none"> ①Wi-Fi 環境の整備、AppleTV の導入 ②ロイロノートの全教科への使用汎用化 ③デジタル・シティズンシップ教育の浸透 ④キーボードのタッチスキル向上 <p>2 Google、Microsoft のプラットフォーム整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iPad の新しい使用法の模索 ・ 先生方の iPad 上での既存の資料活用を提案 ・ Cloud ストレージ活用を進める <p>3 先生方の iPad 使用を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な教員研修会の実施 ・ オンデマンドでの使用法の発信 ・ iPad を使った先進校の取り組みの紹介 <p>4 チーム内での情報共有と事業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週の会議による迅速な課題解決 ・ 緊密な情報共有による相互サポート ・ 新たなアプリ使用への研究、提案、発信 ・ 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦 			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	学校評価	担当者	米田 浩三
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①学校評価に関する企画・立案・実施 ②学校評価の報告書の作成・提出 ③授業アンケートに関する企画・立案・実施 ④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 各アンケートの活用方法についての検討</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①令和3年度各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成 ②令和2年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成 ③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討 ④学校関係者評価に対する資料作成			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	事務室	担当者	松井 保
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上(継続)</p> <p>②企画・運営に関する事務(時代の教育に対するニーズを的確に押さえる)</p> <p>③校内・教育環境のさらなる整備(継続)</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>学校の課題を真摯に考え時代と地域のニーズに応じた特色のある学校作りを生徒獲得に向けて教員とともに実現していく。</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員や生徒・保護者の意見を聞きながら、きめ細かい事務処理を行っていく。生徒・保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がけ、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。 上宮学園本部事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。 業務内容の必要性や効率性を常に考え、事務処理の質の向上に前向きに取り組む。不必要であれば廃止も検討する。 <p>② 企画・運営に関する事務(時代のニーズに的確に押さえる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の実態を見極め課題改善のハードルを調整し、地域地域の課題にも目を向ける。 教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有し、積極的に学校の課題を把握することはもちろん、その課題の改善策を多角的視野から提案・実現をしていく。 <p>③ 校内・教育環境のさらなる整備(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育館の空調設備、トイレ、エントランスの整備、また、本館校舎の外壁工事等を行い、生徒、教職員がより安全で快適に教育活動に専念できるように進めていく。 			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

令和3年度
学校評価に関する
各部署の中間評価報告

上宮太子高等学校
学校評価委員会

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	教務部	責任者名	田中 良和
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 教務運営システムの整備・効率化</p> <ul style="list-style-type: none">・学校行事の着実な実施と改良・教務各系の業務内容と資料の点検・整備・教務内規の精査・改定・整備・各部署との連携強化による業務効率化			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>(2) 有効な指導体系の継続検討</p> <ul style="list-style-type: none">・新カリキュラム導入に向けた校内整備 (観点別評価・新教務システムの導入)・ICTの導入による新しい教授法の検討 <p>(3) 国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・社会の動きに併せながら対応をしていく <p>(4) オンライン授業の準備</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍での臨時休校時も学びを止めないために ICT 教育推進室と連携の上で整備を進める			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>【年度末に向けての検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・2022年からの新カリキュラム(50分授業)に伴う教科主任との検討会・観点別評価及び新教務システム導入に向けた準備・教務内規・考査規定の再検討・ICTを活用した更なる授業の改良 <p style="text-align: right;">※課題は山積の状態である。積極的に取り組んでいきたい。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	生徒指導部	責任者名	米田 文昭
-----	-------	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

教育相談 悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする。

1 教職員への啓発・発信…「不登校を考える会」プリント配布

2 スクールカウンセラーと教職員との連携…研修会実施予定

3 教育相談室の活用…数件使用している(担任対応)

生徒会 1 生徒会活動の活性化…UTフェスタ企画・運営

2 委員会活動の活性化…来年度に向けて検討中

3 広報活動…Instagramの更新

4 生徒会活動の研究…あまりできていない

5 インターアクトクラブの活動…「届けよう、服のチカラプロジェクト」に参加

生活指導 1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化…教員が統一した目で見ると

2 道徳意識, 規範意識の向上(頭髪服装検査強化)…月1回HRで実施

3 いじめ・不登校, 配慮を要する生徒への取り組み…生活アンケートにより情報収集

4 生徒の愛校心向上…検討中

5 制定品見直し…来年度より女子スラックスを制定品とする

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

生徒相談 笑顔であいさつがあふれる学校づくり

生徒会 生徒主導による各種活動

生活指導 事故がなく安心して生活できる学校づくり

あいさつ活動や、各委員会の積極的な活動を促すため、まず、先生方の指導により活発化する

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

生徒の自主的な行動により、規律正しく、挨拶をはじめとする活気あふれる学校づくりを目指す(教員より声かけを積極的に行う)

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	進路指導部	責任者名	漁野篤史
-----	-------	------	------

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

I. 進学実績の目標達成（a. 国公立16 b. 関関同立15 c. 産近甲龍70）

進学実績に関する項目なので、現時点での評価はできない。

指定校推薦制度を利用した生徒は37名で、昨年度より7名減少した。

II. 基礎学力の向上（d. 偏差値52以上を2割 e. 偏差値46以上を5割

f. 模試の事前・事後指導、結果分析）

高校1年で偏差値46を超えている生徒の割合は35%であった。

高校1年で偏差値52を超えている生徒の割合は12%であった。

高校2年で偏差値46を超えている生徒の割合は30%であった。

高校2年で偏差値52を超えている生徒の割合は10%であった。

III. 主体性を育む教育

g. 探究活動の推進

個人活動である探究ゼミに関して、次年度以降も含めて実施が困難と感じる。

h. 家庭学習の推進

進路指導部として取り組んでいるものではないが、ICTサービスの利用に伴い一定程度の定着がうかがえる。

IV. 戦略的改革（i. 生産性の高い進路指導体制構築

j. アクティブラーニングの研究と啓蒙）

あまりすすんでいない。業務全体の見直しについて、改善の余地がある。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

I. a. b. c.

高3学年団と連携しつつ、指導法を工夫していく。

II. d. e. f.

高1、高2学年団と連携しつつ、指導法を工夫していく。

III. g. 高1、高2学年団と連携しつつ、より良いものを作り上げていく。

h. ICTサービスを活用しながら進めていく。

IV. i. j.

業務の削減や分担について、検討を続ける。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入試対策部	責任者名	佐々木哲也
取り組み内容に対するの中間評価（項目別でも、全般的でも可）			
（1）受験者確保に向けての広報活動			
<ul style="list-style-type: none">・総合進学コース専願の3教科受験や、全コース専願の高得点科目重視型入試などの変更点について強くアピールした。それによって、今年は太子が変わったということが結構広まってきた。・豊富な語学研修制度や、英語の授業におけるネイティブの先生によるレッスンや、月2回セブ島とipadを繋いでのマンツーマン英会話レッスンなどの充実度をアピールした。・4月からZoomによるオンライン個別相談会を行っていたが、6月からは希望者の自宅に直接電話をかけて、学校見学ができますよと伝えることで100%見学に変わり、校内見学者が増えた。・校外での説明会においては、コロナの影響で開催中止になったり、開催しても入場制限が設定されることが多かったが、私学展を除いては例年通りの数になっていた。・五ツ木模試における、上宮太子を第一志望とする受験生が増えてきた。・校内説明会では、日程や回数、間隔を考えて組むことで参加者を増やさなくてはならない。			
（2）効果的な広報物を制作・活用する			
<ul style="list-style-type: none">・広報から、年間3枚のリーフレットを生徒たちの手によって作成してもらい、中学・塾に配布した。・高1生一人ひとりの元気そうな写真をコメント付きで加工し、卒業した各中学へ持参して廊下に掲示してもらった。・生徒目線の学校案内DVDをCDに焼き付けて各中学に持参し、生徒に見せてもらえるようお願いした。・ICTツールを活用した広報活動までには至っていない。			
（3）情報の収集・共有化			
<ul style="list-style-type: none">・渉外活動や研修会参加において情報収集を行っているが、定期的に校内の先生方へお伝えするところまでは至らず、学校全体での情報の共有化まではできなかった。			

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

（1）について

- ・ 効率よく中学・塾に案内をかけるために、1軍、2軍に分けて渉外活動をおこなう。
- ・ 訪問した際には、説明会や、ブースに参加してくれた生徒のことを伝えて、次に繋がるように積極的に案内をかけていく。
- ・ 説明会への動員数を増やすよう広報活動を行っていく。

（2）について

- ・ 現状のものを最大限活用して広報活動を行う。
- ・ 塾、中学だけでなく、広報物を置いてくれる場所を探して紹介してもらう。

（3）について

- ・ 学校全体での情報共有化が行えるような方策を検討する。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	国語科	責任者名	福田 和憲
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">・各担当者による、教授法および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽・ICT機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索・生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・共通テスト平均点 文系7割5分、理系6割5分以上・国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした授業形態の確立			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>教科主任だけでなく、専任・常勤教諭の全員が授業時数、担任業務、分掌業務とあまりに多忙なため、国語科として、授業担当者へのヒアリングや意思統一、入試問題の勉強会や授業改善のための取り組みなどに全く時間を割くことができていない。特に非常勤講師の先生方には、教科を超えて学年からの依頼、特に3年生は生徒からの面接や志望理由書添削など、本来の業務以上に負担を強いている部分も多く、来年度以降はしっかりシステム化して負担軽減に努めたいと考えている。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	社会科	責任者名	前田 良仁
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 授業の厳正化と社会科としての強化 各教員のそれぞれの工夫もあり、保てていると考えられる。</p> <p>(2) 教科会の活性化 そこそこ開催できており、情報交換並びに、教員研修も少しはできている。</p> <p>(3) 入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題) イクザムなどの教材も各先生の手元に入り、研究中である。</p> <p>(4) 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究 各自進んでいるが、発表の機会などできないでいる。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p> <p>それぞれで、進みつつあり、また相互の情報交換の機会を作りたい。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>来年度からの新カリキュラムへの対応 並びに、その教材の選定と教材づくり 来年度への準備をしておかないと今年度終わってからでは間に合わない。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数学科	責任者名	今西 和美
<p>1. 授業の厳正化</p> <p>各コースの特性を考慮し個々に教材研究を行うとともに、担当教員間での情報交換、教材の共有を心がけている。研究授業を特設していないが、互いの授業を見学し、個々に意見の交換行っている。数学科全体での研修には至っていない。コースの細分化により同一教科を複数教員で担当することが少なくなっているため、教科全体での意見交換の場も少ない。全体での研修の機会を今後設けて行きたい。</p> <p>2. 数学力の向上</p> <p>毎日の家庭学習定着は、学年・コースにより内容・量を生徒の実状に応じて定着に努めている。定期考査や模擬テストのレビューは定着しているが、生徒本人に任せるところが大きく効果的にその機会を活用できているかは確認できていない。各学年単位での補習講習の設定を受け、より効果的な内容を工夫して実践している。大学入試問題の研究・研修は各自での研修にとどまり、教科全体の取り組みとして実践できていない。各コース於ける目標大学合格率向上への取り組みは、それぞれのクラスにおける日々の積み重ねであり、その成果が期待される。</p> <p>3. 教科会の活性化</p> <p>連絡の徹底と教科内の共通認識に努めたが、毎週の教科会を活用できなかった。観点別評価や新カリキュラムに向けて綿密な計画が必要とされる。今後の教科会で活性化させたい。</p> <p>4. 研修への積極的な参加</p> <p>オンラインでの研修会が中心となったが、いくつかの研修会に参加できた。日常の業務に追われ、研修の機会があってもなかなか参加が叶わないのも実情である。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一</p> <p>各コースにおける副教材の見直し。自学習できる教材選びを検討している。</p> <p>2. 理系進学希望者の増強</p> <p>数学Ⅲを必要とする進学希望者が減少している。数学Ⅲに耐える力を高1、2年でつけ、数学に興味をもたせるよう努めているが、減少傾向は続きそうである。</p> <p>3. 理系大学進学率の向上</p> <p>学年ごとに基礎力の定着、応用力・実践力の強化に取り組んでいる。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>数学科全体での取り組みとして、授業見学・大学入試問題の分析・ICTを利用した教材の共有などの実現。</p> <p>新カリキュラムに向けてのシラバスの作成</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理科	責任者名	石川 修二
-----	----	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

① 指導力を向上し、授業内容を充実する

a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。

→各科目、授業において興味深い実験を実践している。

よりよい授業に向けて、教員間の情報共有や意見交換も行われている。

b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践

→各科目において、高3の年内入試に向けての生徒に応じた個別指導や講習など、

より良い指導法や教材の研究、および実践が日々行われている。

c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材を研究し、新課程研究を進める。

→iPadを使用した教育用動画や実験動画の視聴、ロイロノートを使用した発表や実験のまとめ、パワーポイントを使った板書事項の要約など、研究を重ねながら教材を検討、使用している。

d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。

→授業や演習、講習を通して、研究した内容を生徒に還元している。

e 観点別学習状況の評価基準を検討する。

→「生徒の積極的な取り組み」への配点基準を検討中である。

② 大学入試に対応できる学力をつけさせる

g 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。

→各科目において積極的に実践されている。

h 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。

また、課題の与え方について検討する。

→各科目において積極的に実践されている。

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

ICT 機器で扱う教材の研究

- ① iPad を使用した教育用動画や実験動画の視聴
- ② ロイロノートを使用した発表や実験のまとめ
- ③ パワーポイントを使った板書事項の要約
- ④ デジタル指導書の授業に合わせた適切な使用

他にも、実験の記録など研究を重ねながら教材を検討、使用している。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

- ・授業に楽しんで参加するということと、大学受験に向けての学習とのギャップ。実験などは好きだが、計算ができない、字が書けない、授業を長く聞けないといった生徒が少なからずいる。単純な計算作業などを頻繁に行うなど、計算力向上の方法を検討中である。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英語科	責任者名	今塩屋誠
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>1, 2年生にはオンライン英会話やロイロノートによる音声指導を行い、英語に興味を抱かせる。3年生には予習・復習を徹底させ、小テストなどで定着度を測り、大学入試に備えさせる。</p> <p>今年度より1年生のコミュニケーション英語Iでレッスンの内容を音読し、ロイロノートで提出させました。提出の度に音読が上手になっていくのがわかりました。このことがオンライン英会話への参加度も増したように感じます。</p> <p>3年生はどのクラスも小テストをまめに行っているので少しずつ語彙が定着していると思います。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>今年度より1年生の英Cで4技能を意識した授業に変えていく</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>① 英語力の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・予習・復習や宿題をロイロノートで提出させて点検しています。・速読教材を使い、共通テストの準備を少しずつ行っています。 <p>② オールイングリッシュ授業への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none">・1年生は田名部高校を模範として実践していて軌道に乗りつつあります。 <p>1年生のコミュニケーション英語の授業ではオールイングリッシュでの取り組みを徐々に行うようになりました。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健体育科	責任者名	鶴田 充功
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。 本校体育授業時の最初に取り組む授業内容である。年々礼儀などが、おろそかになっている傾向にあるが、授業だけでなく人として当たり前に行えるように指導している。・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。 身体能力が低下を実感する中、生涯における健康のため運動の大切さを理解させる。技能、体力ともに向上しながら協調性の大切さを伝え指導できている。・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。 今年度は、体育実技など、技能解説、技能試験等にも活用できてきており、生徒の理解、技能習得も順調に推移している。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新興感染症への対応 (新型コロナウイルスに対する知識、予防方法、罹患時の対応など) 日々変わっていく情勢に対し、迅速な情報収集し、対応改善し予防に努めている。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>タブレットを活用した授業を増やし、主体的な学習が評価につなげられるよう工夫をする必要がある。運動を通じた健康、知識を習得させる。</p> <p>運動、保険体育の中から様々な学習になるよう意識づけも継続して行っていきたい。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	芸術科	責任者名	阪口雅則
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>行事への協力、取り組みについて。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 聖徳書道展において案内発送、台紙への作品貼り付け、展示のレイアウト及び展覧会の運営に協力できた。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>(1) 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 三教科とも実技を中心に行いながら、歴史的なことや学問的なことにも触れ、授業が進められている。 <p>(2) 評価評定の方法について協議する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教科会にて何度か評定の在り方（特に平常点）について話したが、今も進行中である。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 芸術は、五教科では学べない部分を教えるべきだと考えているので、評価、評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	家庭科	責任者名	植田 梨絵子
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 家庭科に対する学習意欲の向上 学習の必要性を伝え、生活へ意識を持たせるようアプローチをしていきたい。</p> <p>② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 身近な生活からの知識を精査し、習得したその知識を生かすことができるように促していきたい。</p> <p>③ 男女共同参画社会を意識した教育推進 ジェンダーフリーを当たり前と考え行動できるよう伝えていきたい。</p> <p>④ 教材の整備 授業時間や生徒一人ひとりにあった教材を選定しているので、今後も継続していきたい。</p> <p>⑤ 実践的授業の実施計画 年度ごとに精査しているので、無理のない実習計画ができた。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・興味関心を高める教材の選定・授業の工夫(プレゼンテーションによる評価方法の確立など)</p> <p>当初すべての分野に導入をしたかったが、授業時間の確保が難しく、3学期、来年度への課題にしていきたい。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>中・長期の目標と同じく、タブレットを活用した授業を増やし、主体的な学習が評価につながられるよう工夫をする必要がある。ルーブリック評価をさらに明確にし、公平でわかりやすいものにしていきたい。生活の中から様々な学習になるよう意識づけも継続して行っていきたい。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	責任者名	須藤 秀裕
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① より良い授業内容にするための検討</p> <ul style="list-style-type: none">・「学習効果の高い実習課題の検討」および「座学で扱う内容の再構成」については、取り組んでいる。 <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <ul style="list-style-type: none">・「プログラミング教育に関する情報収集」については、随時実施している。・「カリキュラムを含めた授業計画案の検討」については、実施できていない。 <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p> <ul style="list-style-type: none">・『「情報科」大学入試導入に関する情報収集』および『「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加』については、取り組んでいる。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・「共通テストに関する情報収集」および「共通テストへの対策」については、現時点では十分とは言えない。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>① ・学習効果の高い実習課題の検討については、取り組んでいる内容を精査する。</p> <p>② ・「プログラミング教育に関する情報収集」および「カリキュラムを含めた授業計画案の検討」については、継続して取りくむ。</p> <p>③ 『「情報科」大学入試導入に関する情報収集』および『「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加』については、継続して取り組む。</p> <p>④ 「共通テストに関する情報収集」および「共通テストへの対策」については、今後も継続して取り組む。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	宗教科	責任者名	柴田直毅
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">●授業開始の「一枚起請文」奉読はコロナウィルス対応により声を抑えて指導します。●パワーポイントを利用して授業展開、内容を工夫・検討しています。●祖山参拝などの行事を実践していきたいです。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>立腰からの合掌、奉読をスムーズにしていきたいです。</p> <p>生徒が分かりやすい教材を研究していきたいです。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>学期が進むにつれて、生徒の関心、意欲が薄れがちになるので、日々研究していきたいです。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	第1学年	責任者名	宮本卓弥
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 学習面における基礎基本の徹底理解</p> <ul style="list-style-type: none">・全体的によく取組んでいる。・提出物の出ていない者に対しては、学期末に強制的に補習に参加させ、学ぶ姿勢を正すための徹底的な指導を行っている。 <p>(2) 基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none">・高校生活に慣れ、生活リズムが確立してきている生徒が多い。・生活習慣が確立されているため、遅刻生徒が少なく、長欠の生徒がいない。 <p>(3) 家庭と学校および学校組織内の意思疎通</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の様子や学校での生活の様子などは、懇談や電話連絡などを通して頻繁に伝えている。・ロイロノートやclassiを通じて、生徒と教員、教員間の情報共有に努めている。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>①個々の能力の最大化させ、その能力を目的の進路に向けて最適化し、希望の進路を獲得する。</p> <p>②自身に誇りを持てるよう、何事もやり抜く力を育てる。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・学校生活に慣れてきているのはいい傾向である。しかしながら、緩みも出てきている。学校や家庭で基本的生活習慣の徹底を再確認する。・学習面においては、文理選択が決定しているので、より細やかな進路決定に向けた指導を行っていく。			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	第2学年	責任者名	八内 宇弘
-----	------	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

(1)「正思明行」、学順の実践と人間力の向上

- ・まだまだ幼い面も見られるが、3年生に向けて勉強に意欲的な生徒も散見される。またクラブ活動では積極的に後輩を指導する様子もうかがえる。着実に人間的にも成長していると思われる。

(2)生徒・保護者・教員の意思疎通

- ・学校での様子が日常と違う場合は、即座に家庭に連絡し、問題の早期発見に努めている。

(3)学力向上（特に英語、数学、国語）のための方策と学習習慣の確立

- ・日々の早朝テストや課題などをこなし、着実に力をつけている所もある反面、結果として伸び悩んでいる者も多く、今後の課題であると感じている。

(4)ICT機器を利用した教授法の研究・推進

- ・積極的にiPadを利用し、授業を展開している。また、連絡事項などについてもiPadを利用し、生徒へ伝えているので、概ね達成できている。

(5)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

- ・週1回の担任会はもとより、日常的に生徒の情報を交換している。

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

(1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践

- ・新高3次に進級するにあたり、受験科目を意識させた選択を行っている。しかし自己の将来の具体的なイメージを想像させることについては今後の課題である。

(2)社会の一員であることの意識の定着（デジタル社会を生き抜く力の養成）

- ・ICT機器の正しい使い方は概ね達成できてはいるが、今後も指導を行っていく必要があると感じる。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	第3学年	責任者名	茶田 昌蔵
<p>令和3年度の重点目標</p> <p>①生徒・保護者・教員の意思疎通 ②自立心を養う</p> <p>③学力の向上 ④希望進路実現に向けてのサポート</p> <p>① 4月から新学期がスタートし、受験生の自覚を持たせ、学習習慣の確立に努めてきた。授業も確保され、生徒たちも受験に向けて、真剣に学習に取り組むようになってきた。7月の期末試験後に三者懇談を行い、保護者・生徒の意見を尊重しつつ、受験に向けて、どのように対策を立てて行くのか、話し合うことも出来た。</p> <p>② 二者面談を1学期、2学期に行い、個々の目標を明確にさせて、具体的にやるべきことを決め、行動させることで、自主的に勉強する生徒が多くなった。</p> <p>③ 1学期の定期考査の1回で仮5段階がつくので、まずは定期考査に集中して勉強に取り組ませた。特に入試で使わない教科も手を抜くことのないように指導した。休日の自習室も積極的に利用し、学力の向上も見られた。</p> <p>④ 8月初旬から三者懇談を実施して、どの入試制度を使って受験するのかを決定し、具体的な対策方法を考え、実行に移させた。必要な生徒に対しては、小論文指導・面接練習を実施した。</p>			
<p>(中・長期目標)※数年計画で達成したい目標</p> <p>高3学年であるので、限られた時間を有効に使う、個々の進路目標達成のサポートをすること。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>【総合進学コース】</p> <p>指定校・高大連携入試、総合選抜型推薦入試が落ち着いた時期である。しかし、今年度は、年内入試が激戦となることを踏まえて、これから受験をする生徒に対して、学校選抜型推薦入試に向けて実力をつけさせ合格に導く。</p> <p>【特進コース】</p> <p>総合進学コースで大学合格者が出る中、焦って私学に流れるのではなく、大学入学共通テストに向け最後まで現役・国公立大学合格の目標を持たせ努力させる。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	人権教育	責任者名	谷川 聡
-----	------	------	------

人権 LHR において、高1・高2では新型コロナウイルスによる偏見、差別・「黙食、黙トレ」・「新型コロナウイルスによる人権問題」の動画を見てもらい、アンケートに答えてもらいました。高3ではこれに加え、「外国人の人権」について考えてもらうために「日本でも人種差別は日常 八村兄弟らが受けた被害とは？」・「日本語インタビュー渡邊雄太アジア人差別について語る」の動画を見てもらいました。

大多数の生徒は、しっかりと自らの意見を記入してくれました。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

現代におけるあらゆる種類の差別は、昨今のインターネット社会の中で、加速度的に世界に拡散していく事実を理解すると共に、誤った認識や知識による差別、偏見について考えねばならない。

人権HRの実施に関しては、時間を探して実施している様な状況です。担任指導のスタイルでの実践となりました。これからも教員一同がより良い学習方法を模索していく必要があると存じます。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健管理	責任者名	西巻 裕子
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症等の学校感染症の予防と発生時の迅速な対応のため学校保健情報の集約を引き続き円滑に行う。(学校感染症出席停止に関する報告、保健所との連携)</p> <p>② コロナ禍で運動不足がみられ、1学期から2学期で体育授業時のケガが3.5倍急増したため、予防教育に取り組む。</p> <p>2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症の動向を見据えて第6波に備えた免疫力向上に結び付く生活習慣の改善を目指す。また、がん教育のアンケート等を実施して予防教育に取り組む。</p> <p>② 本校が抱える健康課題の一つに、心の問題が体の不調をきたして来室する生徒の7割以上であることから、心のケアを重点的に行い、その要因を探る。また、養護教諭だけでなく関係職員と連携が図れるようにiPad等の活用を検討する。</p> <p>③ 保健室ホームページの充実とICTを活用した健康教育を推進する。</p> <p>3、健康相談活動における心のケアと各分掌と連携、情報の共有化</p> <p>① 生徒一人一人への声かけと目配りを行い、特に表出できない心の問題を推察する。</p> <p>② SCと連携して、対面だけでなくICT機器等のツールを活用した新たなスクールカウンセリングのあり方を検討する。</p> <p>4、学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進</p> <p>① 学校保健に関連する臨時委員会の随時開催</p> <p>② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポートとして学校医と連携した新型コロナウイルス感染症予防ムービーを作成する。(ワクチン編、治療・ウイルス編)</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・学校医をはじめとする学校保健委員会の組織化、推進化を図る。・Health care room (保健室のHP) 等で情報発信に努め、将来へ繋ぐ予防教育を実践する。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・学校ホームページのリニューアルに伴い、Health care room (保健室のHP) からの情報提供に限界がある。Health care news (保健だより) だけでなく、健康情報、生徒保健委員会活動、取り組み等様々な情報発信ができるように検討していきたい。・心の問題に対して生徒との信頼関係を築いていきながら、関係機関・教職員との情報共有・連携に苦慮している。保健室の機能と養護教諭の専門性を発揮して、一人でも多くの生徒の心に寄り添う。			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	図書教育	責任者名	植田 梨絵子
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①図書室の運営管理の充実 開館時間が定着し、生徒の図書館利用に関する認知も少しずつ広がってきているので、継続して行ってきたい。</p> <p>②書籍の充実 年間を通じて、購入計画(予算やジャンルなど)をたて、選定を行い購入しているので、ジャンルの偏りを需要に応じて行っている。</p> <p>③読書活動の推進 「図書館だより」の発行は行っているが、まだまだ生徒の読書時間は増えていないので、教員も含め図書室から積極的な啓発を行っていききたい。</p> <p>④利用生徒数の向上 一度利用した生徒は、何度も借りに来ることが多いが、借りたことがない生徒も多く、きっかけを作っていききたい。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・蔵書管理システムの有効活用と蔵書登録・管理の徹底 教員だけでなく、委員会に所属生徒と協力して整備を進めているので、今年度中に9割の蔵書登録を目標にしたい。・レファレンス業務の向上 蔵書登録数が増やせると、レファレンス業務の向上も期待できる。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>カウンターに個別処理をすべき蔵書が溜まってきているため、来年度に向けてクリアーにして配架や書庫へ整理していききたい。</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	広報	責任者名	田中 良和
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">・6月のホームページリニューアルに伴う円滑な移行と掲載内容の精査。 ⇒新しい業者との連携のもと見たい情報にすぐにたどり着けるホームページを目指して、動画の整理やトップページの改良を行っている。また広報物やノベルティにおいて、新ロゴである「I'm here」の定着を図った。・ブログの更新回数やSNSを活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ⇒行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップして内容の充実を図っている。今年度より生徒会生徒主導でより、中学生ユーザーが多いInstagramに公式ページを立ち上げ、生徒目線での学校情報を発信している。・近隣地域に向けた広報活動の充実。 ⇒総合探究部の懸垂幕を掲示した。(今年度バス側面への広告はなし)・入試対策部及び新しい広報依頼業者との連携強化。 ⇒常に連絡を密にし、受験生増加に伴う広報戦略を図っている。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。・今後の広報戦略における立案を図る。・他校との差別化を図るための広報物やホームページのあり方の検討。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>学校案内、ホームページ管理において、今年度からの新依頼業者と連携を図りながら作成を進めてきた。今後の入試説明会、入試本番の動向を見極めながら次年度につながる広報戦略について共有認識のもと、共に完成度の高い仕事をしていきたい</p>			

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	業務推進室	責任者名	須藤 秀裕
-----	-------	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

① 共有文書等のデータによる活用

- ・「各種書類の印刷量の削減およびデータの活用」は、一部で実施できている。

② 個人情報の管理の徹底

- ・「定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起」および「個人データの管理の徹底」については、年度当初実施したが、現時点では十分とは言えない。

③ 環境の充実

- ・「ファイルサーバ内のフォルダの整理」は、実施できていない。
- ・「個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底」は年度当初に実施している。

④ 業務軽減への方策

- ・「分掌内での情報の共有化の徹底」および「効率的な業務の分担の実現」は一部できている。
- ・「作業マニュアルの改訂」は実施できていない。

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

⑤ クラウドサービスの活用

- ・「クラウドサーバの利用」は、一部で実施している。
- ・「校務システムの研究」は、次年度導入に向けて実施している。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

- ① 「各種書類の印刷量の削減およびデータの活用」は、今後も取り組む。

- ② 「個人情報の管理の徹底」は、継続して取り組む。

- ③ 「ファイルサーバ内のフォルダの整理」は、今後も取り組む。

- ④ 「作業マニュアルの改訂」は、校務システムの導入に伴い大きく変更されるため、次年度、新たに作成する。

- ⑤ 「クラウドサービスの活用」は、活用の幅を広げる。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	ICT 教育推進室	責任者名	福田 和憲
-----	-----------	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

- ・ iPad の 1 人 1 台使用環境の整備
- ・ デジタル・シティズンシップ教育の開始
- ・ ロイロノート、Google、Microsoft のプラットフォーム整備
- ・ 先生方の iPad 使用の機運を高め、日常的に iPad が動く状況を整備

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

- ・ 各教科での独自のアプリ使用を含め、iPad のクリエイティブな使用が進む状況を構築

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

まず4月から導入した iPad の生徒一人一台の稼働については、予定通りにスムーズな運用の見通しは立ったように思う。初年度ということもあり、あえて新たな事に踏み込まず、ロイロノートの使用を深める方法を重点的に行ったが、先生方にはスムーズに浸透しているように感じる。デジタル・シティズンシップの運用にまだ改善点は残るが、生徒たちは iPad のある日常を受け入れているように感じている。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	学校評価	責任者名	米田 浩三
-----	------	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

①学校評価に関する企画・立案・実施

年度当初の予定通りに進んでいる。

②学校評価の報告書の作成・提出

報告書は完成し、提出済。

③授業アンケートに関する企画・立案・実施

令和3年度はWeb 授業アンケートとし、準備は終了。11月下旬に実施予定。

④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施

今年度の学校関係者評価は、コロナ禍の時期であったため、アンケート形式で8月に実施。

学校評価委員会は校内委員で7月に実施。

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

各アンケートの活用方法についての検討

まだ、具体的な新たな活用については検討中である。

令和3年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	責任者名	松井 保
-----	-----	------	------

取り組み内容に対するの中間評価（項目別でも、全般的でも可）

① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持

各証明書の申請書の内容、証明書の発行など業務内容の必要性や効率性を常に考え、事務処理の質の向上に前向きにさらに取り組む必要がある。

重要な支援金や奨学金の申請書類など、生徒・保護者、担任の先生と連携を取りながら適切に処理ができた。

② 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり）

学校ホームページをリニューアルし、学校の特色など積極的に発信しやすい環境を整えた。また、UTフェスタなど学校の特色を外部に伝えることができるイベントなどの成功のためにサポートすることができた。

③ 校内の・教育環境のさらなる整備

体育館の空調設備、トイレ、エントランスの改修を行い、体育館床のメンテナンスにおいても計画的に行えるように整備した。また、本館校舎の外壁工事等を行い、生徒、教職員がより安全で快適に教育活動に専念できるように進めていくことができた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持

既存の業務・作業の内容と工程を見直し、更なる業務の効率化を図っていく。

1月から本格的に始まる入試業務等においても適切に対応していきたい。また、体操服などの制定品等も大きく変わるので業者と密に連携しながら対応していく。

② 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり）

UTフェスタ・入試説明会の回数を増やし、実際に学校を受験生に見てもらえる機会が増えた。生徒募集につながる大切な機会であるので、残りの説明会も成功させるために事務室としてサポートしていきたい。

③ 校内の・教育環境のさらなる整備

体育館床については、バレーボールの支柱の蓋など経年劣化により破損している為、早急に交換し安全対策を行っていく。体育館補修等必要な箇所については、計画を立てて修繕していきたい。

令和3年度
学校評価に関する
各部署の総括

上宮太子高等学校
学校評価委員会

部署名	教務部	担当者	田中 良和
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの新教育課程導入における校内整備 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携 考査規定・5段階基準等の教務内規の再検討 コロナ禍においても充実した教育活動・行事の実施に向けた企画・運営・検討 コロナ禍に対応したオンライン授業確立のために ICT 教育推進室との連携と校内整備
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教務運営システムの整備・効率化 国際理解教育の推進 有効な指導体系の継続検討

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 教務運営システムの整備・効率化</p> <p>① 学校行事の着実な実施と改良 ※入念な準備、実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等</p> <p>② 教務各係の業務内容と資料の点検・整備</p> <p>③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知</p> <p>④ 各部署との連携強化による業務効率化</p>	B	B	① 各部署と連携を取り、先生方の協力のもとで行事を円滑に進めることが出来た。新規行事もあり、実務面で出た課題に対して、改善を図りたい。
<p>(2) 有効な指導体系の継続検討</p> <p>⑤ 新カリキュラム導入に向けた校内整備</p> <p>⑥ ICT の導入による新しい教授法の検討</p>	B	B	② 各業務を明確化し、点検・整理を行った。
<p>(3) 国際理解教育の推進</p> <p>⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく</p>	B	A	③ 次年度から導入の観点別評価についての基本構造を作ることが出来た。
<p>(4) オンライン授業の準備</p> <p>⑧ コロナ禍での臨時休校時も学びを止めないために ICT 教育推進室と連携の上で整備を進める</p>	B	B	④ 特に教務面では業務推進部、行事面では生徒会・体育科との連携を図ることが出来た。
	C	C	⑤ 令和4年度からの新教育課程用カリキュラムに向けての準備を整えた。
	C	C	⑥ 教務主導ではなく、各教科において ICT 教育の推進が図られた。
	B	B	⑦ 海外修学旅行・海外語学研修・English Camp は中止となった。オンライン英会話のみ実施することが出来た。
	B	B	⑧ ICT 教育推進委員による校内研修会や ICT 環境の整備により、全教職員のスキルアップに繋がった。またコロナ罹患の場合も、即時的にオンライン授業に切り替えられる校内体制が築かれている。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<ul style="list-style-type: none"> 今後、様々な変化が予想される社会状況においても、教務部として対応できる柔軟性と準備をしておきたい。 次年度からの観点別評価の枠組みが固まったので、実務面での円滑な運営が今後の課題である。 次年度より新しい教務システム (BLEND) が導入される。生徒連絡や成績処理等、全生徒・保護者・教職員が円滑に利用出来るよう、運用方法を精査した上で有効活用を図りたい。 45分授業から50分授業への移行の年であり、朝礼時間の活用や50分授業の運用方法を検討していきたい。

部署名	生徒指導部	担当者	米田文昭
-----	-------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
教育相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする。 1 教職員への啓発・発信 2 スクールカウンセラーと教職員との連携 3 教育相談室の活用
生徒会	1 生徒会活動の活性化 2 委員会活動の活性化 3 広報活動 4 生徒会活動の研究 5 インターアクトクラブの活動
生活指導	1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 2 道徳意識, 規範意識の向上 (頭髪服装検査強化) 3 いじめ・不登校, 配慮を要する生徒への取り組み 4 生徒の愛校心向上 5 制定品見直し
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
生徒相談	笑顔であいさつがあふれる学校づくり
生徒会	生徒主導による各種活動
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
教育相談			
1. 研修会への参加、そして報告 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布	B	B	生徒がカウンセリングを予約しながら連絡なしでキャンセルになることが多くなってきた。生徒への利用に関しての連絡等指導に工夫が必要。教育相談室の利用が数件あった。担任との連携でスムーズに取り組んでいた。
2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整 カウンセリングを受けた生徒(保護者)の状況を把握 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催	B	B	
3. 保健室での相談を教育相談室へ移行 担任・学年を中心に取り組む	B	B	
生徒会			新型コロナウイルス感染症の影響で、体育大会を学年別球技大会、文化祭を外部のホールを借りて実施。また、ボランティア部が本格的に活動を開始。文房具・ぬいぐるみ・コンタクトレンズのケースなどを集める活動を行う。校長対談会での活発な意見交換ができた。学校公式Instagramに記事を投稿する。
1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり (体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等)	C	B	
2. 委員会活動の活性化	B	B	
3. 広報活動(上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加)	C	A	
4. クラブ生を主体とした学校の活性化	B	B	
生活指導			頭髪服装検査は、担任の先生を中心に生活指導部と連携をとり実施できた。また、制定品の変更により、生徒心得の変更を行う。あいさつ活動は、生徒会・風紀委員会の協力で活発に行うことができた。高1オリエンテーションでは、生活指導部より話をし、その後頭髪服装検査を実施する。
1. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施	B	B	
2. HRを使用し、頭髪服装検査を実施し、生徒心得遵守を促す	B	B	
3. 「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校, 配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	B	B	
4. 「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映	B	B	
5. 靴、女子スラックスの検討	B	B	

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: { A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない }

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

生徒相談	生徒相談室の活用及び保健室とカウンセリングとの連携
生徒会	クラブ活動・委員会活動など生徒による自主的な活動の活性化
生活指導	生徒心得の見直し・検討(校長対談会による生徒会との意見交換含む)

部署名	進路指導部	担当者	漁野篤史
-----	-------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
III. 主体性を育む教育	IV. 戦略的改革

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
I. 進学実績の目標達成 (高校3年)			I.
a. 国公立大学16以上合格	B	A	a. 合格数17
b. 関関同立15以上合格	B	A	b. 合格数19
c. 産近甲龍70以上合格	B	A	c. 合格数104
II. 基礎学力の向上 (高校1年・2年)			II.
d. 進研模試偏差値52以上を学年の2割以上	B	B	d. 高1は16%、高2は19%
e. 進研模試偏差値46以上を学年の5割以上	B	B	e. 高1は39%、高2は42%
f. 模試の事前・事後指導、結果分析	B	C	f. 分析および説明が不十分
III. 主体性を育む教育			III.
g. 探究活動の推進 (高校1年・2年)	B	B	g. 発表会を実施、形ができつつある
h. 家庭学習の推進	B	C	h. 担任を通じた指導が必要
IV. 戦略的改革			IV.
i. 生産性の高い進路指導体制構築	C	C	i. 協力体制の構築が不十分
j. アクティブラーニングの研究と啓蒙	B	B	j. 浸透しつつある教科もある

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>①高校1年生・2年生に関しては、基礎学力の定着と向上に取り組む。さらに、「思考力」「判断力」「表現力」を育むための探究活動を進め、「主体性」を引き出したい。</p> <p>②高校3年生に関しては、教科・学年と連携し、さらなる学力および進学実績の向上に取り組む。</p> <p>③生産性の高い進路指導体制を作る。全人教育を通して進学実績を向上させる。</p>

部署名	入試対策部	担当者	佐々木 哲也
-----	-------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 受験者数確保に向けての広報活動</p> <p>(2) 効果的な広報物を制作・活用</p> <p>(3) 情報の収集・共有化</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p style="text-align: center;">受験者数の安定的確保</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 受験者数確保のための活動	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの外部説明会に参加し、保護者・受験生に対して直接話をし、校内行事や学校見学で上宮太子に足を運んでもらうことで受験者数の増加に繋がった。 こまめに中学・塾訪問を繰り返し、その都度今年度入試における変更点を説明することで、上宮太子が変わったということアピールした。 中学・塾訪問では、在校生の近況報告を常に行い、受験生については、校内行事の参加状況を伝えることで、上宮太子を意識してもらった。
(2) 効果的な広報物を制作・活用	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 高1生の一人ひとりの元気そうな写真や、学校紹介DVDを作成して、卒業した中学に持参したが、配布時期が少し遅かった。 生徒作成のリーフレットや、行事リーフ、ポテカラ付きリーフなどは効果的であった。
(3) 情報の収集・共有化	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 渉外が外部から聞いてきた情報について、渉外担当者の中では共有できたが、校内の先生方へ伝える場を設けることができなかった。

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<ul style="list-style-type: none"> 中学・塾が独自でやっている説明会などに参加させてもらい、保護者や受験生に直接話ができる機会を作ってもらえるよう働きかける。また、中学・塾単位で団体で学校訪問に来てもらえるようお願いする。 外部で知り得た情報を、定期的に校内の先生方へ伝える。 中学・塾だけでなく、他の団体や店舗などにも宣伝してもらえるようにする。

部署名	国語科	担当者	福田和憲
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各担当者による、教授法および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽 ICT機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索 生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通テスト平均点 文系7割5分、理系6割5分以上 国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした授業形態の確立

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1、授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 ① 生徒の学習定着をはかるための方策研究 ② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み ③ 職員同士での国語力向上についての意見交換 2、各学年での学習指導内容の研究 ①特進Ⅰ・Ⅱ類、高3特進コース 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成 難関私立大学への進学を視野に入れた実力養成 ②総合進学コース →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 新学習指導要領に向けた授業改革 →Find!アクティブラーナーの積極的な活用、 アクティブラーニングの研究、授業への導入 →ロイノートを軸とした、Ipad活用法を研究した授業展開 3、教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック ① 予備校・大学主催の研修会などへの積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ ② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催 ③「論理エンジン講座」「記述講座」「新入試制度研究」をはじめ、 教科内の教員による勉強会実施	B B B B B B B C C C	B B B B B B B C C C	<p>共通テストや入試の内容も年々変化を見せる中で、読解力、表現力をつける必要性は年々高くなってきている。引き続き意識を高く持って取り組みたい。</p> <p>やはり今年も各コース、各学年のマンパワー類みの部分が大きく、それぞれの共有をもう少し進めるべきであった。</p> <p>共通テストについては、それほど大きな変化はなかったが、まだ一度も出題されていない実用的文章への対応も含め、しっかり来年度以降に向けた取り組みの基礎を作っておくべきである。</p> <p>iPadの活用は、順調に進んでいる。来年度以降もこの流れを上手く授業改革に活かしていきたい。</p> <p>各学年、それぞれ工夫を凝らした形で授業を展開し、講習や授業中の小テストを実施している。小テストに関しては教科としてかなり定着してきたが、さらに成績伸長につながる授業改善を模索すべきである。教員の研修会への参加は、ほぼZOOMという事で、やや低調であり、個人でのブラッシュアップにとどまっていた。新課程も始まるので、来年度は教科内勉強会を最優先事項に取り組みたい。</p>

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>来年度の新課程において現代文と古典といった枠組みが大きく変わる。これを機に、教科内での勉強会などを通して、教員のスキルアップにつなげていきたい。</p> <p>今年度は、共通テストや私立大学の問題はあまり変更がなく、大学入試への対応としては、本校としての取り組みも大幅な変更は必要なさそうである。しかし、依然、生徒の国語への意識が高いとは言えない。しかし、他教科の学習の基礎ともなる読解力を伸長することは必須の課題である。iPadを活用したICT教育を上手く利用しながら、様々な能力の伸長をはかれるよう、授業の構成を考えていきたいと思う。</p>

部署名	社会科	担当者	前田 良仁
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 授業の厳正化と社会科としての強化</p> <p>(2) 教科会の活性化</p> <p>(3) 入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題)</p> <p>(4) 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす ④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80% を上回る。 ⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。 (4)①新カリキュラムへ向けての研鑽 ②ICT の活用の在り方を研究していく。	A	B	イクザムなどの教材も各先生の手元に入り、研究中である 各自進んでいるが、発表の機会などできないでいる。
	A	B	
	A	B	
	A	A	

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>来年度からの新カリキュラムへの対応 並びに、その教材の選定と教材づくり 来年度への準備をしておかないと今年度終わってからでは間に合わない。 各コースの指導の在り方の模索</p>

部署名	数学科	担当者	今西 和美
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増強 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③能力に応じた補習・講習の実施 ④大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ⑤特進Ⅰ類コースの国公立大合格率向上 ⑥特進Ⅱ類コースの関関同立大学合格率向上 ⑦総合進学コースの一般入試合格率向上 (指定校・学校推薦型入試を有効活用するとともに、一般入試に対応できる学力をつける) 3. 教科会の活性化 ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、教授法を学び教科会で検討、導入していく。 ②新学習指導要領によるカリキュラム構成, 評価方法を研修し、各コースの最適な授業実践計画を検討する。	A	B	タブレットを用いて課題の確認や個々の生徒への指導に役立てることで学力向上につながっていると感じる。今後も生徒の実情に応じた教材研究に努め教科内で共有していきたい。 コースの特性を生かした指導を心がけるが生徒自身にその意識を高めるような指導が必要だと感じる。一般入試に対応できる学力をつけて自信につなげたい。 研究授業は全体での研修は実現できなかった。個々に研修し、情報交換はできている。次年度より新カリキュラムとなり観点別評価も導入されるので、さらに情報交換を密にして取り組む必要がある。 大学入試問題の研究は個々には努めているが、教科全体の研修には至っていない。外部の研修会もコロナ禍で参加の機会が少なくなっている。オンラインでの研修会にも積極的に参加していきたい。
	B	B	

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>新カリキュラムにより、入試に必要な科目に対応した授業が必要となる。情報収集を行い、迅速な対応が要求される。また、入試制度の変更により、生徒の学力にこれまでとの違いが生じる可能性がある。コースの特性を生かした授業や講習とともに、学力に遅れのある生徒への対応も教科で取り組んでいかなければならない。進化していくICTを活用した授業、タブレットの有効利用に取り組んでいきたい。</p>

部署名	理科	担当者	石川 修二
-----	----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>昨年度までの目標から継続し、以下の2つを重点目標とする。</p> <p>① 指導力を向上し、授業内容を充実する。</p> <p>② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>ICT 機器で扱う教材の研究。</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 指導力を向上し、授業内容を充実する</p> <p>a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。</p> <p>b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践を行う。</p> <p>c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材を研究し、新課程研究を進める。</p> <p>d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。</p> <p>e 観点別学習状況の評価基準を検討する。</p>	A	A	<p>・各科目において、適切な時期に内容に即した実験を行った。教員間の情報共有や意見交換も行われている。</p> <p>・各科目において、高3の年内入試に向けての生徒に応じた個別指導や講習など、より良い指導法や教材の研究、および実践が行われた。</p> <p>・iPadを使用した教育用動画や実験動画の視聴、ロイロノートを使用した発表や実験のまとめ、パワーポイントを使った板書事項の要約など、研究を重ねながら教材を検討、使用している。</p>
<p>b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践を行う。</p>	A	A	
<p>c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材を研究し、新課程研究を進める。</p>	B	B	
<p>d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。</p>	B	B	
<p>e 観点別学習状況の評価基準を検討する。</p>	C	C	
<p>② 大学入試に対応できる学力をつけさせる</p> <p>f 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。</p> <p>g 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。</p> <p>h 生徒それぞれの志望に寄り添う指導を実践する。</p>	B	B	<p>・授業や演習、講習を通して、研究した内容を生徒に還元している。</p> <p>・「生徒の積極的な取り組み」への配点基準を検討中である。</p>
<p>f 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。</p>	B	B	
<p>g 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。</p>	B	B	
<p>h 生徒それぞれの志望に寄り添う指導を実践する。</p>	A	A	

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況の評価基準の検討 ・実験などは好きだが、計算ができない、字が書けない、授業を長く聞けないといった生徒への対応 ・単純な計算作業などを頻繁に行うなど、計算力向上の方法の検討

部署名	英語科	担当者	今塩屋誠
-----	-----	-----	------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>1, 2年生にはオンライン英会話やロイロノートによる音声指導を行い、英語に興味を抱かせる。</p> <p>3年生には予習・復習を徹底させ、小テストなどで定着度を測り、大学入試に備えさせる。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>今年度より1年生の英Cで4技能を意識した授業に変えていく</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 英語力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習をほぼ毎日課して、ロイロノートを利用して点検する。 ・辞書を利用する。 ・速読教材を使い、共通テストの準備をする。 	A	A	<p>予習のチェックや課題提出にロイロノートのおかげでほぼ毎回実施でき、また転記の必要もなく大活躍していた。</p> <p>特進用の新しい辞書が使いやすかった。</p>
<p>② オールイングリッシュ授業への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生はオンライン英会話を利用して speaking Listening の力をつける。 ・1年生のコミュニケーション英語の授業でオールイングリッシュでの取り組みを徐々に行い、音声活動に重点を当て、その評価に平常点に別枠で10点分を配当する。 	B	B	<p>タナブ式を試してみたが非常に上手くいったので来年度は改善しながら実施したい。</p>
	A	A	<p>ネリーサ先生にロイロノートを使い音読指導をしてもらい、担当者が再度評価を与えたので音声活動がスムーズにできた。</p>

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>タナブ式のオールイングリッシュの問題点を改善してこれから実施していきたいと思います。</p>

部署名	保健体育科	担当者	鶴田 充功
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。 ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。 ・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新興感染症への対応 (コロナウイルスに対する知識、予防方法、罹患時の対応など)

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない	B	B	一部の者を除き、概ねできている。時間を守れないものは、ほぼ同じ人物なので改善指導を続けていく。
集団行動の様式の習得と実践(静と動) 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	B	B	小中学校で、あまり取り入れられてなく習慣づけるまでに時間がかかった。
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B	B	年度初めは特に1年生に服装の乱れはあるが、時間とともに改善している。
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	B	B	ベースボール型の技能が全体的に見れば、年々落ちている。
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	A	A	保健の授業でも、スポーツと運動、健康の関連性を理解させている。
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	B	C	ルールの理解度が低い、要改善していく。
ICTの導入 iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践していく	A	B	保健の授業ではほぼ電子教科書で授業を行っている。板書の時間が確保でき説明を詳しく解説、理解させている。体育では実技試験などで活用。フォームや動作分析の活用。
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED使用方法	B	B	ダミー人形や、AEDキットなどで実習。命の尊厳について深く理解できた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>基本的には今年度の内容を継続していく。 運動不足、スポーツ離れが進む中、運動の大切さ健康への関連性の理解をさせ実践させていく。 コロナウイルスについての理解を深めさせ日々の変化に対応できるようにする。</p>

部署名	芸術科	担当者	阪口 雅則
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>1. 行事への協力、取り組み。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <p>3. 評価、評定の方法について協議する。</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1. 行事への協力、取り組み。</p> <p>① 聖徳書道展への協力。</p> <p>② 芸能鑑賞等、教務部との連携。</p>	A /	A /	<p>・①においては、入選の賞状を早く書きあげ、賞品と共に発送したので時間短縮出来た。</p>
<p>2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <p>① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。</p> <p>・音楽 演奏(器楽、声楽)の基本技術の指導。 音楽史の学習。</p> <p>・美術 絵画表現(描写、着色)と立体表現の指導。 美術史の学習。</p> <p>・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。</p>	A	B	<p>・音・美・書とも、今年度はコロナ禍でもあり、指導に工夫をこらした。 各科目に多少の人数に差はあるものの、少人数での授業となったため、一人ひとりの生徒への指導が行き届いたと感じられる。</p>
<p>3. 評価、評定の方法について協議する。</p> <p>① 平常点の割合の研究、分析等を行う。</p>	B	C	<p>・継続して協議しなければならないが、特に観点別学習状況評価にむけ、各観点における事項を確認することが課題である。</p>

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>・芸術 (Iのみ) で何を学ばせるのか再度考えたい。</p> <p>・評価についてどうあるべきか、そして観点別学習状況評価の中で「知識・技能」、「思考・判断力・表現」について各科目ごとに明確に出来るよう考えたい。</p> <p>・3年生総合コースで(2年後)「情報」と「書道」から(2単位)選択での実施がほぼ決定しているが、いずれ美術・音楽についてはいかがなものかを考えたい。</p>

部署名	家庭科	担当者	植田 梨絵子
-----	-----	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 家庭科に対する学習意欲の向上</p> <p>② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成</p> <p>③ 男女共同参画社会を意識した教育推進</p> <p>④ 教材の整備</p> <p>⑤ 実践的授業の実施計画</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・興味関心を高める教材の選定・授業の工夫 (プレゼンテーションによる評価方法の確立など)</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①家庭科に対する学習意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の内容を深め、関連した資料や情報を添付する。(本物志向の展開: 本物を見て触らせる) 未提出者等は催促し、必ず提出させる。 他教科にも通じるような授業を展開する。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 真面目に取り組む学年で、説明をよく聞いて課題に取り組んでいた。また、実生活のなかでの疑問などを提言するなど積極的な授業参加をしていた。
<p>②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを使用して、提示した問題に対する考えを端的にまとめる練習をしたが、おおよそできていた。問題の意味を理解することができない者もあり、フォローが必要であった。
<p>③男女共同参画社会を意識した教育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間でのジェンダー意識は年々下がってきている。
<p>④教材の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見だし展開できる問題解決的な教材を検討する。 情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用した授業をもっと考えていきたい。
<p>⑤実践的授業の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりは行程が重要であるため、構造、材料・製作、仕上げを、計画的に実施する。 全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 実習の時間が確保しにくい。行事も多く、年間で計画をもっと詰めていきたい。

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>授業がマンネリ化しないためには、タブレットや情報コンテンツをもっと活用すべきであった。比較的楽しんで取り組んでやり取りができる生徒が増えてきたが、手持無沙汰になっている生徒も見受けられた。生活を冷静に見直し、実行・実践する力、自立する力を養っていきたい。</p> <p>18歳に成年年齢の引き下げがスタートするので、官公庁のPRなどを参照に、「成人」を意識させたい。また、若年層の契約によるトラブルなども増加することが想定されるので、巻き込まれないための対策などをみんなで考えていきたい。</p>

部署名	情報科	担当者	須藤 秀裕
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p>

2. 令和3年度の実行計画 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① より良い授業内容にするための検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習効果の高い実習課題の検討 ・ 座学で扱う内容の再構成 	B B	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定個の成果はあった。 ・ 再構成し、実施できた。
<p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング教育に関する情報収集 ・ カリキュラムを含めた授業計画案の検討 	B C	B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定の成果はあった。 ・ 検討はしたが、十分とは言えなかった。
<p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加 	B C	C C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分とは言えなかった。 ・ 十分とは言えなかった。
<p>④ 大学入試科目への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テストに関する情報収集 ・ 共通テストへの対策 	C C	C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分とは言えなかった。 ・ 全くできなかった。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p>

部署名	宗教科	担当者	柴田 直毅
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①校訓、学順の理解 ②授業内容のさらなる充実 ③宗教行事の理解と実践</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>ICTを活用した授業の実践、自ら考えを表現できる力の育成</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 校訓、学順の理解</p> <p>(1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。</p> <p>(2) 礼儀作法について学習、実践をする。</p>	B	B	<p>法然上人像への一礼など、生活指導の先生方の努力もあり、生徒は恥ずかしながらも実践していると思います。</p>
<p>② 授業内容のさらなる充実</p> <p>(1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。</p> <p>(2) 生徒の理解に適した授業を展開する。</p>	B	C	
<p>③ 宗教行事の理解と実践</p> <p>(1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。</p> <p>(2) 生徒参加による宗教行事の実践をする。</p>	B	C	<p>新型コロナウイルスによる影響、感染防止の観点から、一枚起請文奉読は声を出さずに心で称える事を基本としました。 「声に出して」唱える事は強要しません。 一年生の総合コースでは元気に「奉読、念仏」をしてくれました。</p> <p>昨年同様、体育館での宗教行事そのものがZOOMによる式典に変更となり、生徒に宗教的作法の実践を指導することができませんでした。</p>
	C	C	

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>iPad の購入、ICT教育による授業展開を検討していきたいです。ロイロノートを活用した授業展開も検討していきたいです。鑑賞形式のアクティブラーニングも、生徒の心に残る、今後活かせる内容を検討していきます。</p>

部署名	第2学年	担当者	八内宇弘
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1)「正思明行」、学順の実践と人間力の向上</p> <p>(2)生徒・保護者・教員の意味疎通</p> <p>(3)学力向上(特に英語、数学、国語)のための方策と学習習慣の確立</p> <p>【目標:特進Ⅰ類コース(偏差値60以上)、特進Ⅱ類コース(偏差値55以上)、総合進学コース(偏差値50以上)】</p> <p>(4)ICT機器を利用した教授法の研究・推進</p> <p>(5)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>(1)個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践</p> <p>(2)社会の一員であることの意識の定着(デジタル社会を生き抜く力の養成)</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	B	B	(1)修学旅行を実施することができ、生徒の満足度が高かったように感じる。
②思い出に残る修学旅行の企画と充実	A	A	
③学年企画による校外学習の実施	B	C	
(2)①家庭と学校との綿密な連携	A	A	(2)概ね達成できていた。
(3)①勉強に集中できる学級の雰囲気作り	B	B	(3)①概ね達成できていた。
②毎日の家庭での学習の習慣の確立	B	B	②早朝テスト合格のために地道な努力を続けた。
③定期考査前の補習の実施	A	A	③学期ごとに補習を行い、定期考査に意識を向けることができた。
※総合進学コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50を目指す	B	B	①毎日の勉強の成果もあった。今後は大学合格に向けて継続的な勉強の習慣が必要だと感じる。
※特進Ⅱ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値55を目指す	B	B	①毎日の勉強の成果もあった。今後は大学合格に向けて継続的な勉強の習慣が必要だと感じる。
※特進Ⅰ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値60を目指す	B	B	①毎日の勉強の成果もあった。今後は大学合格に向けて継続的な勉強の習慣が必要だと感じる。
(4)①iPadでの課題配布	B	B	(4)①概ね達成できていた。
②ICT機器の積極的な活用による授業展開	B	B	②概ね達成できていた。
(5)①学年担当者会議の可能な限りの実施	B	B	(5)学年担当者会議は、年度当初のみであった。
②日常の会話による生徒の情報交換	A	A	

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>模試の偏差値、英検の合格状況を踏まえると、概ね順調だと感じる。ただ、最終学年をどのように終わるかが勝負となるので気を引き締め、継続的な勉強の習慣を確立させることに取り組んでいきたい。大学共通テスト、私大合格をどのように乗り切るかが、3年時の最大の課題である。</p>

部署名	第3学年	担当者	茶田 昌蔵
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 生徒・保護者・教員的意思疎通 ② 考える力を養う ③ 家庭学習の定着、学力の向上 ④ 希望進路実現に向けてのサポート</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p>

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 家庭との連絡を密にして、クラス担任が知り得た情報を、学年団教員全員が共有し同じ方向性を持って生徒の指導にあたる。	A	A	各担任からの家庭連絡は確実にこなし、生徒の情報の共有を徹底することが出来た。
② 自らで正しく物事を考え、自分の将来に向けてどのように進むべきか、明確にさせる。	A	C	生徒に教えすぎず、自分で調べさせるなどの指導を行ったが、正しく考えられない、人の話を聞いて行動できない生徒も多くいた。
③・限られた時間の中での授業内容や提出課題、早朝や補講の効果的な実施方法を工夫する。	B	B	クラブ活動に力を入れている生徒が多く、限られた時間を有効に活用できていた。
・総合型選抜、学校推薦型選抜等で合格が内定した生徒に対するケアや、大学入学共通テストや一般選抜に向けて勉強する生徒に対する支援を両立させる。	A	B	合格が内定した生徒も、集中して学業に取り組み、諦めずに一般入試に向けてのサポートもよい形で出来ていたと思われる。
④・二者面談を積極的におこない、生徒の現状を的確に把握し、担任、学年団での情報の共有をしながら生徒を的確な進路に導いていく。	A	B	二者面談だけに限らず、生徒と多くのコミュニケーションをとり、的確に指導が出来ていた。
・模試を有効的に活用し、的確な進路指導を行う。	A	C	模試対策を万全には行えなかった
・総合進学コースの生徒についても、最後まで諦めない強い気持ちを持たせて受験に望ませる。	A	B	総合進学コースは一般の後期まで諦めずに受験し、合格を勝ち取った生徒が多くいた。
・特進コースは国公立大学に目標を定め、大学入学共通テストで高得点につながるよう指導をする。	A	B	特進コースは共通テストを挽回し、諦めずに勉強を継続でき、合格を多く勝ち取れた。
・進路指導部と連携をとり、個々の生徒の対応に当たる。	A	B	

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準：
 A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>総合進学コースは産近甲龍が100以上、特進コースは国公立大学が17(50%以上)と結果を残すことが出来たと感じている。担任、学年の諦めずに一般の後期入試に向けての指導、生徒への正しい対応の成果と考えている。今後、32期生で得た経験を上手く、他学年と共有し、さらに結果が出せるようにしたい。</p>

部署名	人権教育	担当者	谷川 聡
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成</p> <p>② 育てる人権教育の実践</p> <p>③ いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>学校生活の中で人権問題（友達との関係、クラブ活動など）を認識する。</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する</p>	B	B	部会において、他校の先生方の意見を聞くなどして、より良い教材の模索を進めた。
<p>②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する</p>	B	B	体育大会や文化祭であるべき集団生活・規範意識を醸成せねばならないが、コロナ禍の中、十分に実践はできなかった。
<p>③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践</p>	B	B	普段なかなか声を上げにくい生徒も、このアンケートにより、サインが得られる重要な実践であると思います。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>新型コロナウイルスははまだ猛威をふるっており、これに関する人権問題は引き続き考えていく。 ICTなども利用して、他校の先進的な例も参考にして、より分かりやすく、生徒が正しく理解する教材づくりに力を傾ける必要がある。</p>

部署名	保健管理	担当者	西巻 裕子
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践 健康相談活動における心のケアと各分掌と連携、情報の共有化 学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>学校医をはじめとする学校保健委員会の組織化、推進化を図る。</p> <p>Health care room (保健室のHP) 等で情報発信に努め、将来へ繋ぐ予防教育を実践する。</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る ① 新型コロナウイルス感染症等の学校感染症の予防と発生時の迅速な対応、学校保健情報の集約 ② 救急処置の迅速な対応とけがの予防教育(数値化) ③ 配慮を必要とする生徒の支援について、個別のニーズに応じた支援のあり方を示し、共通理解を図る	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校医や保健所の指導を仰ぎ、健康観察、感染者発生時の情報収集と報告を迅速に行い、濃厚接触者の特定につなげた。感染予防対策の意識を高め、学校全体で取り組めたことで集団発生に至らなかった一要因と考える。 ・災害発生件数が昨年度よりも35%減少した。 ・日常的に生徒への声かけに努め、養護教諭間の連携が深まり、専門性を発揮することができた。その結果、個別のニーズに応じた支援が学年団との連携・協力のもと共通理解が図れた。 ・新型コロナウイルス感染症の予防教育として、学校医の助言のもと学校保健委員会が主体となり「予防4-7-」や学校医への「インレ」動画を制作した。HPへの掲載を行い、予防意識を高める実践となり成果を得た。がん教育は出来なかった。 ・学校HPの改変により保健だよりに限定した発信となった。保健室からの情報の発信方法に関して再検討が必要である。 ・心身のケアを教育相談室の活用など相談しやすい環境と声かけに努め、SCと連携して、悩み事やいじめや不登校等に対して個別の支援は成果があった。しかし、SC、教育相談業務が保健室だけで抱える状況である。生徒指導部を中心とした組織的なチームとしての推進が急務である。 ・チームとして学校医や産業医、教職員、生徒の連携・協力のもとに、暑さ指数の測定、新型コロナ予防動画撮影、CO2測定等の新たな主体的な学び合い、情報発信となる実践ができた。興味・関心が湧くような本校独自性に重点をおいた予防啓発活動、保健教育活動の企画ができた。
2. 自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 ① 新型コロナウイルス感染症やがん教育等の予防教育 ② 本校が抱える心身の健康課題を見出し、個別・集団的保健指導の実践、将来に影響を及ぼす健康問題を研究 ③ 保健室ホームページの充実と関係医療機関との連携	B	B	
3. 健康相談活動における心のケアと各分掌と連携、情報の共有化 ① 心の問題を的確に把握するために生徒一人一人への声かけと全教職員との情報交換を密に図る ② SCと教育相談、関係職員との連携、共通理解を図る ③ 不登校、いじめ事象等の迅速な把握と減少をめざす	A	A	
4. 学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進 ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の組織的運営の確立、臨時委員会の適宜開催 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート(学級への健康管理や啓発活動、心身の健康に関する探究・学び合いと情報発信、評価につなげる)	B	C	
	B	B	
	A	A	
	A	A	
	A	A	
	A	A	
	A	A	
	A	A	
	A	A	

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**：
 A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの予防教育や感染症発生時の迅速な対応ができるように健康観察を徹底して情報共有を図る。 ・健康相談活動は、SCや担任・学年団、部活動顧問等チームとして連携・コーディネートを行い情報の共有化を図る。生徒指導部主体でSCの全面的協力により専門性を優先、SC、教育相談業務の組織的推進を図る。 ・将来の健康・保持増進のための健康教育活動となり得る「がん教育」「生活習慣病」等についても、学校医等の専門的機関への助言を仰ぎ、保健体育科と連携して、保健教育活動の取り組みを検討していきたい。 ・生徒保健委員会活動では本校の健康課題に応じて主体的な学び合い、独自性のある予防啓発活動、保健教育活動の企画を目指す。 ・ICTの活用を見出し、保健室業務の効率化ならびに生徒保健委員会活動や心身の健康に関する情報発信においても重点的に推進していきたい。スポーツ振興センター災害共済請求給付業務は学園本部に委託されるため、学園本部と連携する。

部署名	図書教育	担当者	植田 梨絵子
-----	------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①図書室の運営管理の充実 ②書籍の充実 ③読書活動の推進 ④利用生徒数の向上</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・蔵書管理システムの有効活用と蔵書登録・管理の徹底 ・レファレンス業務の向上</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①図書室の運営管理の充実 (1)開館時間の安定 (2)館内内の整備	C	B	・今年度は主に蔵書登録をすすめた。昨年度実績より 500 冊ほど多く登録ができたが、まだ未登録の蔵書が 10000 冊ほどあるので、今年度を目途に登録を完了させたい。
②図書の充実 (1)購入図書の選定および購入 (2)希望図書への配慮 (3)蔵書の整理	C	C	・選書を行う時間がつくれず、1 学期のみの購入になった。進路関係や買い替えの書籍を検討していきたい。
③読書活動の推進 (1)読書の啓発 (2)図書館だよりの定期的な発行	C	B	・図書委員会を中心に POP をたくさん製作した。また国語の授業などで作成した POP も図書室で活用している。 ・図書館だよりの発行は、滞る月があった。
④利用生徒数の向上 (1)図書室利用の推進 (2)委員会の活動の推進	C	B	・整備がなかなかすすまないで、利用者は大きくは増加していないが、本を読むことに抵抗ある生徒は意外にも少ないことがわかった。きっかけを様々な角度からつけていきたい。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>来年度からは紀伊國屋書店から図書室に司書を派遣していただくので、専門的に整備がすすめられるので、期待したい。すべて任せっぱなしになるのではなく、必ず学校の意向に沿った図書室になるよう、定期的なミーティングを行っていき、問題点や改善点、発展的なアイデアをまとめていく。</p> <p>また、生徒だけでなく教職員の活用も促していきたい。業務に追われる日々の中で、本に触れる機会を設けてもらいたい。息抜きの読書だけでなく、知識を深め、生徒と共に発見ができる書籍を検討し、図書室が学習空間でもあり、休息の場にもなるよう、司書の方々と図書教育を推進していきたい。</p>

部署名	広報	担当者	田中 良和
-----	----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月のホームページリニューアルに伴う円滑な移行と掲載内容の精査。 ・ブログの更新回数やSNSを活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。(道路沿いの横断幕、バス側面の広告等) ・入試対策部及び新しい広報委託業者との連携強化。
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。 ・今後の広報戦略における立案を図る。

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 本校ホームページの更なる改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報委託業者と連携を図り、新しいホームページが利便性の高い状態を維持する。 	B	A	新規委託業者との連携により、学校案内・ポスター・ホームページの作成及び運営を行うことが出来た。また業者と月1回の広報戦略に関する定例会を開催した。
<p>(2) ブログの更新回数増加とアップ内容の精査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのアップ内容を精査し、日常的に学校の情報を発信することを目指す。 	B	A	行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップし、内容の充実を図っている。また新規に公式Instagramを立ち上げ、幅広い年齢層に応じた広報活動を実施することが出来た。
<p>(3) 近隣地域に向けた広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。 	C	C	今年度は懸垂幕の掲示のみで近隣地域への広報活動にはまだまだ改良の余地がある。次年度はバス広告や太子町広報誌への広報活動にも着手したい。
<p>(4) SNS活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせた広報活動を追究する。 	B	A	さまざまな情報を集めながら研究をし、積極的に検討を進めた。
<p>(5) 学園財政を鑑み、広報費用の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実績をもとに費用対効果の高いものを選定し広報活動を行う。 	B	B	概ね前年度通りのブース数及び広告本数で広報費用を抑えることが出来た。前年度の踏襲だけでなく、費用対効果の精査が必要である。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<ul style="list-style-type: none"> ・新規委託業者との連携を密にして、学校の魅力の伝え方を模索していきたい。特にホームページの閲覧数とオープンキャンパス・入試説明会の参加者の増加に焦点を絞り、広報活動を行っていく。 ・新入生及び在校生に対するアンケートの集計・分析により、上宮太子の強みと課題を明確化することが出来た。広報物の作成時期を従来よりも前倒したスケジュールにより、入試対策部にとって外部にアピールする適当な時期に、必要な広報物が揃えられるような支援をしていきたい。

部署名	業務推進室	担当者	須藤 秀裕
-----	-------	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 共有文書等のデータによる活用</p> <p>② 個人情報の管理の徹底</p> <p>③ 環境の充実</p> <p>④ 業務軽減への方策</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>⑥ クラウドサービスの活用</p>

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 共有文書等のデータによる活用 ・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用	B	B	・ 一定の成果あった。
② 個人情報の管理の徹底 ・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・ 個人データの管理の徹底	C	C	・ 十分とは言えなかった。
	B	B	・ 一定の成果あった。
③ 環境の充実 ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理 ・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底	C	C	・ 十分とは言えなかった。
	B	B	・ 一定の成果あった。
④ 業務軽減への方策 ・ 分掌内での情報の共有化の徹底 ・ 効率的な業務の分担の実現 ・ 作業マニュアルの改訂	B	B	・ 一定の成果あった。
	B	B	・ 一定の成果あった。
	D	D	・ 実施できなかった。
⑤ クラウドサービスの活用 ・ クラウドサーバの利用 ・ 校務システムの研究	C	C	・ 十分とは言えなかった。
	A	A	・ 十分な成果があった。(次年度から導入)

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>① 共有文書等のデータによる活用</p> <p>② 個人情報の管理の徹底</p> <p>③ 環境の充実</p> <p>④ 業務軽減への方策</p> <p>⑥ クラウドサービスの活用</p>

部署名	ICT 教育推進室	担当者	福田 和 憲
-----	-----------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iPad の 1 人 1 台使用環境の整備 ・ デジタル・シティズンシップ教育の開始 ・ ロイロノート、Google、Microsoft のプラットフォーム整備 ・ 先生方の iPad 使用の機運を高め、日常的に iPad が動く状況を整備
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科での独自のアプリ使用を含め、iPad のクリエイティブな使用が進む状況を構築

2. 令和3年度取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1 iPad の授業内での使用環境を整える ①Wi-Fi 環境の整備、AppleTV の導入 ②ロイロノートの全教科への使用汎用化 ③デジタル・シティズンシップ教育の浸透 ④キーボードのタッチスキル向上	A	A	iPad 導入元年ということで、手探りの部分が大きかったが、様々な状況の変化に対応しながらも、大きな問題点もなく運用することができた。
2 Google、Microsoft のプラットフォーム整備 ・ iPad の新しい使用法の模索 ・ 先生方の iPad 上での既存の資料活用を提案 ・ Cloud ストレージ活用を進める	C	C	プラットフォーム整備については、本年度は大きく進めることができなかった。iPad の新たな使用方法についての提言も特に進められなかった事は次年度への課題かと思う。
3 先生方の iPad 使用を進める ・ 積極的な教員研修会の実施 ・ オンデマンドでの使用法の発信 ・ iPad を使った先進校の取り組みの紹介	C	B	先生方の iPad 使用については、ロイロノートや BLEND などの使用で大きく進んだ一方で、積極的な研修会や先進校の研究などには手が回らなかった。
4 チーム内での情報共有と事業推進 ・ 毎週の会議による迅速な課題解決 ・ 緊密な情報共有による相互サポート ・ 新たなアプリ使用への研究、提案、発信 ・ 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦	A	A	本校の ICT チームについては、自信を持って素晴らしいチームであると断言できる。毎週の会議などで問題点を解決し、少しずつ前へ進めていく方針は来年度以降も継続していきたい。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>今年度は、iPad 導入元年ということでハード面の整備、KDDI とのやりとりなど、教育を確実に進めるための時間を多く使ったことで、ソフト面の充実については思ったように進めることができなかった。とくに Google と Microsoft のプラットフォーム構築については、来年度の最優先事項として進めていきたい。</p> <p>来年度は、責任者も代わり、新たな ICT 教育推進室が始まる。今年度決めた教育方針の規定見直しや、新たな iPad の運用方法、教員の使用促進も含め、まだまだ継続的に考えていく内容も多岐にわたっている。来年度も、新生チーム全員でしっかりと取り組んでいけるようにしたい。</p>

部署名	学校評価	担当者	米田 浩三
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①学校評価に関する企画・立案・実施</p> <p>②学校評価の報告書の作成・提出</p> <p>③授業アンケートに関する企画・立案・実施</p> <p>④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>各アンケートの活用方法についての検討</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①令和3年度各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成	A	A	資料作成は予定通りに作成できた。
②令和2年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成	A	A	報告書は予定通りに作成することができ、ホームページに掲載できた。
③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討	B	B	アンケート結果の活用方法については現行のままだけではなく、まだまだ検討する余地があると思われる。
④学校関係者評価に対する資料作成	A	B	コロナ禍の影響により、学校関係者評価は昨年度と同様、対面での委員会の形態は取れず、書類回覧及び意見の回収という形で実施した。 よって関連な話し合いの場は持てなかった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>次のことを今後考えていきたい。</p> <p>①授業アンケートの活用方法の検討</p> <p>②授業アンケート オンライン実施での改善 → QR コードの読み取り方の改善 (1つのコードで全てが読み込めるようにする)</p> <p>③保護者アンケートのオンライン実施</p>

部署名	事務室	担当者	松井 保
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和3年度の重点目標 ※5月6日までに記入

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上(継続)</p> <p>②企画・運営に関する事務(時代の教育に対するニーズを的確に押さえる)</p> <p>③校内・教育環境のさらなる整備(継続)</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>学校の課題を真摯に考え時代と地域のニーズに応じた特色のある学校作りを生徒獲得に向けて教員とともに実現していく。</p>

2. 令和3年度の取り組み内容 ※内容は5月6日までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員や生徒・保護者の意見を聞きながら、きめ細かい事務処理を行っていく。生徒・保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がけ、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。 上宮学園本部事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。 業務内容の必要性や効率性を常に考え、事務処理の質の向上に前向きに取り組む。不必要であれば廃止も検討する。 <p>② 企画・運営に関する事務(時代のニーズを的確に押さえる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の実態を見極め課題改善のハードルを調整し、地域地域の課題にも目を向ける。 教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有し、積極的に学校の課題を把握することはもちろん、その課題の改善策を多角的視野から提案・実現をしていく。 <p>③ 校内・教育環境のさらなる整備(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育館の空調設備、トイレ、エントランスの整備、また、本館校舎の外壁工事等を行い、生徒、教職員がより安全で快適に教育活動に専念できるように進めていく。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要な支援金や奨学金の申請書類など、生徒・保護者、担任の先生と連携を取りながら適切に処理ができた。入学者の増加に伴い今後もさらに多様化していく中、柔軟かつ適切に対応していき生徒・保護者が少しでも安心できるような事務室としての役割を果たしていく。 上宮学園本部事務所との連絡を密にとりながらミスを防ぐことができた。次年度はさらに学園として業務内容の異なるところがあればそれを統一し効率化を図りたい。 時代の変化に伴い既存業務の必要不必要を前向きに考えていく必要がある。また、新しいことに関しても積極的に取り組み前進したい。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒獲得の為に本校の実情やニーズに応じて試験の選考のバリエーションを増やすなど教員と共に熟慮した。 生徒募集は結果として増え、入学者数も増えた。これを次年度以降も継続していくことができるように教職員それぞれが真摯に次の課題を考え、一丸となって学校を運営していく必要がある。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記の内容を進めて行くことができ、さらに体育館のバレーボールの支柱の蓋など経年劣化により破損している箇所に関して修繕をし安全に教育活動ができるように進めた。体育館屋根や教室空調機等、経年劣化により老朽化が進んでいる箇所が目立ってきており、計画的に改善していきたい。

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準:
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

<p>体育館の屋根の改修や普通教室の空調機など老朽化が進んでいるところに関して計画的に修繕・入れ替え等を進めていく必要がある。また、以前に比べて女子生徒の入学者の割合が増加しているため、女子生徒が少しでも快適で安心して学校生活を送れるような環境を整えていけるように多角的方面から意見を聞き計画的に進めていきたい。今後も事務室としての本質的な役割は変えずに、変化の著しい現場のサポートを続けていきたい。</p>

令和3年度 授業アンケート 分析

1. 実施時期

令和3年11月19日 (金)

2. 対象学年

全学年

3. グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の4段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいます。

①教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示しています。

②質問別肯定的評価グラフ (※印は新項目)

「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー(私語・いねむり等をしない)を守っていますか?

「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか?

「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習(予習・復習等)をしていますか?

「情報収集」(※)……この授業に関する課題や関心事項についてインターネットや図書等を活用して情報収集していますか?

「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか?

「板書等」……先生の黒板やICT機器※・プリント等の使い方(体育・芸術等は実技指導)は良いと思いますか?

「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか?

「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか?

「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか?

「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか?

「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか?

「授業展開」……授業の進め方(組み立て)は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか?

「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか?

「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか?

「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか?

「授業成果」(※)……あなたはこの授業で学んだことを自分でまとめて表現できるようになりましたか?)

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」・「情報収集」は生徒の自己評価になります。

4. 分析

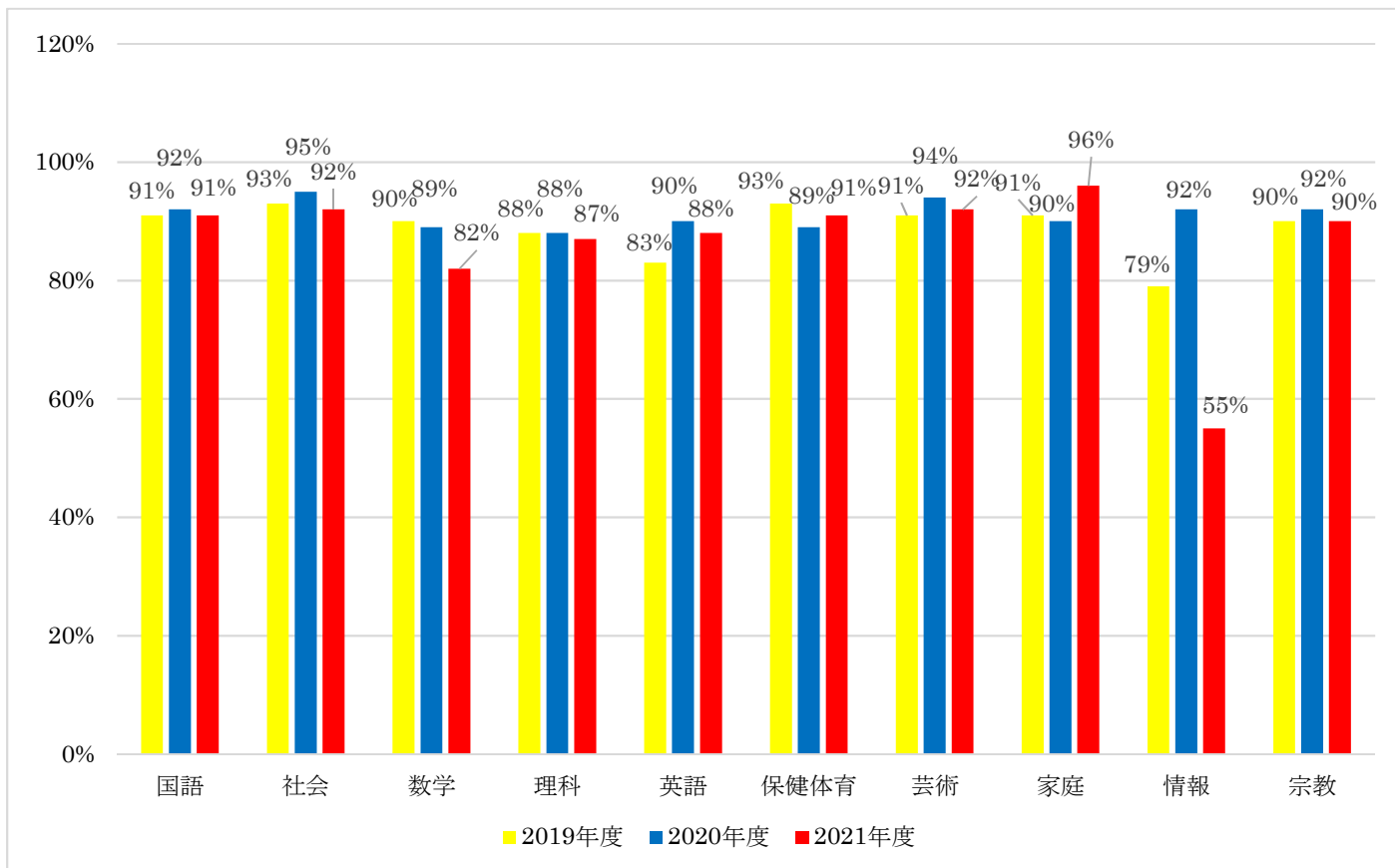
①教科別肯定的評価

約6ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように活用したい。

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも80%以上になることを目標としている。今年度はほとんどの教科で目標の80%以上をクリアできてはいるが、情報科だけは大きく下降する結果となった。また他の教科においても保健体育科や家庭科以外は昨年度よりもやや下降することとなった。過去3年間のグラフを比較すると、全体としてはもともとかなり高い評価を受けているので、1～2ポイント下降することは容易にあり得るが、下降したという事実を軽く受け止めることなく、その原因をしっかりと考え次年度では必ず向上するよう期待したい。

令和3年度 授業アンケート (①教科別肯定的評価グラフ)



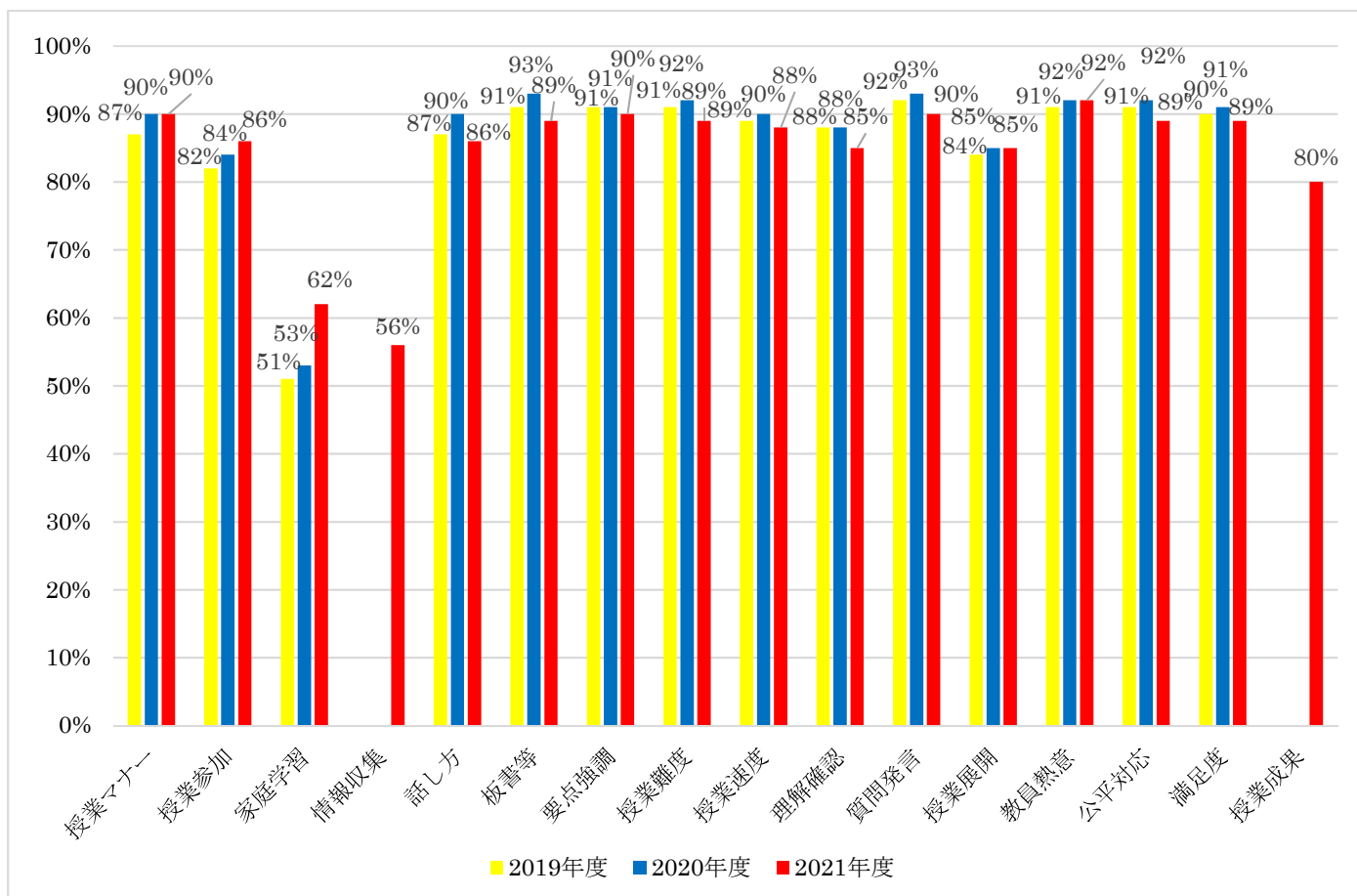
②質問別肯定的評価

質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年度と同様に今年度の重点目標として家庭学習の習慣を掲げた。本年度は数値的にかなり伸びた結果が出ており、3年連続で順調に前年を超えることができた。このことから、ここ数年毎年目標としている家庭学習習慣の向上は、その取り組みが功を奏している。（自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるため40%以上が目安になるが、本年は62%）

他に、もう一つ、生徒の満足度を左右する「授業展開」の評価は他の項目に比べると、以前は評価の数値が低かった（70%台が多かった）が、ここ最近では80%台を守ることができている。しかしながら、今年度は全体として見れば、各項目で昨年度よりも低い結果が出ており、注意を要する結果でもあった。高い結果が出続けているとういことは、下降する可能性の方が高くなる傾向が出てくるが、そのことに甘んじることなく、原因を各教科会等で話し合うことが大切である。

後、今年度は従来の質問項目に加えて、「情報収集」と「授業成果」の2項目（3.グラフについて参照）を追加し、「板書等」の内容にもICT機器の文言を入れた。これらは昨今のインターネット社会における時代の変化から、自ら考え、自ら情報収集し、問題解決に当たることができる人材育成に繋がればとの思いからである。今後はこれらの項目にも注意を払いたい。

令和3年度 授業アンケート（②質問別肯定的評価グラフ）



令和3年度 学校評価に関する報告書

上宮太子高等学校

1. 令和3年度年間目標

令和3年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「礼節を重んじ、常識を身に着け、生きる力を養うこと。細やかな指導により学力面を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させること。これらの実現に向けて各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと。」を掲げた。

2. 各部署の目標と評価

①教務関係

【重点目標】

1. 教務運営システムの整備・効率化
 - ・行事の着実な実施と改良
 - ・教務各係の業務内容と資料の点検整備
 - ・教務内規の精査、改定、整備
 - ・各部署との連携強化による業務効率化
2. 有効な指導体系の継続検討
 - ・新カリキュラム導入に向けた校内整備
 - ・ICTの導入による新しい教授法の検討
3. 国際理解教育の推進
4. オンライン授業の準備

【評価】

- ・コロナ禍の状況の中で行事においても制約や工夫が求められたが、各部署と連携をとり、各部署協力のもとで行事を円滑に進めることができた。
- ・業務内容を明確化し、点検・整理を行った。また、令和4年度から導入の観点別評価についての基本構造を作ることができた。
- ・令和4年度からの新教育課程用カリキュラムに向けての準備を整えた。
- ・新型コロナウイルスの影響で海外修学旅行・海外語学研修・イングリッシュキャンプは中止となった。オンライン英会話のみ実施することができた。
- ・令和4年度より新しい教務システムが導入されるので、生徒連絡や成績処理等全生徒・保護者・教職員が円滑に利用できるよう、運用方法を精査した上で有効活用を図りたい。

②生徒指導関係

【重点目標】

1. 悩みを持つ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする
2. 生徒会活動、委員会活動、広報活動、ボランティア活動の活性化と研究および、インターアクトクラブの活動の支援
3. 生徒指導の推進と問題行動の予防強化、生徒の道德意識、規範意識の向上

4. いじめ、不登校、配慮を要する生徒への取り組み

5. 生徒の愛校心の向上

【評価】

- ・生徒がカウンセリングを連絡なしでキャンセルすることが多くなっている。利用に関して連絡や指導等に工夫が必要である。
- ・新型コロナウイルスの影響があったが、生徒会が中心となって体育大会を学年別球技大会として、また文化祭は外部のホールを借りて実施した。
- ・文房具・ぬいぐるみ・コンタクトレンズケース集めなど、ボランティア部の活動が本格的に始まった。
- ・生徒会・風紀委員会の協力のもとであいさつ活動を活発に行うことができた。

③進路指導関係

【重点目標】

1. 進学実績の目標達成（3年）

- ・国公立大 目標 16 以上
- ・関関同立 目標 15 以上
- ・産近甲龍 目標 70 以上

2. 基礎学力の向上（1、2年）

- ・進研模試偏差値 ss52 以上を学年の2割以上
ss46 以上を学年の5割以上
- ・模試の事前・事後指導、結果分析

3. 主体性を育む教育

- ・探求活動の推進

4. 戦略的改革

- ・生産性の高い進路指導体制の構築
- ・アクティブラーニングの研究と啓蒙

【評価】

- ・国公立大 目標 16 以上 → 実績 17
- ・関関同立 目標 15 以上 → 実績 19
- ・産近甲龍 目標 70 以上 → 実績 104

- ・進研模試偏差値 ss52 以上を学年の2割以上 →16%（1年）、19%（2年）
ss46 以上を学年の5割以上 →39%（1年）、42%（2年）

- ・探究活動については発表会を実施し、形ができつつある。
- ・各教科、各学年と協力しながら効率の高い進路指導実現をさらに進めていく。令和4年度からの観点別評価に対応すべく、生徒の主体的活動を促す取り組みについては浸透しつつある教科もある。

④入試対策関係

【重点目標】

1. 受験者数の安定的確保に向けての広報活動
2. 効率的な広報ツールの作成・活用
3. 情報の収集・共有化

【評価】

- ・多くの外部説明会に参加し、保護者・受験生に対して直接話をし、校内行事や学校見学で上宮太子に足を運んでもらうことで受験者数の増加につながった。また、こまめに中学・塾訪問をくり返し、入試における変更点を説明することで、上宮太子が変わったということアピールした。
- ・一年生一人ひとりの元気そうな写真や、学校紹介 DVD を作成して、卒業中学に持参した。生徒作成のリーフレットなどは効果的だった。
- ・渉外活動の中で外部から得た情報について担当者の間では共有できたが、校内の教職員全体に伝える機会を十分に設けることができなかった。

⑤教科

【重点目標】

- ・授業の厳正化、および学力、指導技術の向上
- ・新学習指導要領への対応と ICT 活用の研究
- ・大学入試問題等の研究推進及び対策

【評価】

- ・教科により、教員間の情報共有や意見交換は行われているが、コロナ禍の影響もあり研究授業など教科全体での研修は進めにくかった。
- ・コロナ禍により、オンラインでの研修会等が増えているが、個々に参加できる機会を有効に利用した。
- ・各教科共、教授法の改善には関心が高い。特にロイロノートやパワーポイント等 ICT を用いての授業が大きく前進し、効果が実感できている。
- ・共通テストに代表されるように大学入試問題の内容が年々変化している中、各教科それぞれに意識を高く持って研究・分析に取り組んでいる。
- ・実技教科においては、コロナ禍の影響で実践が困難な場合もあったが、概ね目標は達成できていると考えられる。また実技教科においても ICT の導入が進んでおり、効果が見られる。

⑥学年

【重点目標】

1. 校訓・学順の実践に根差した基本的生活習慣の確立
2. 各学年に応じた学力定着、家庭学習の確立
3. 担任団・学年担当者間・各分掌・保護者との連携

【評価】

- ・各学年とも年度当初の目的は概ね達成できた。基本的生活習慣の確立については、学年を通じて今後も取り組んでいきたい。
- ・学年内での情報共有については、ロイロノートの活用などにより令和2年度より進展した。家庭連絡も密に行われ、保護者との連携も良く取れていた。
- ・学年の進行に応じて学習の成果が出つつある。特に3年生は各コースとも最後まで諦めずに受験し、合格を勝ち取った生徒が多くいた。
- ・今後とも各学年の目標達成を意識した指導の確立を目指していきたい。

⑦その他

【重点目標】

1. 学年の現状に合わせた新しい教材の使用による、育てる人権教育の実践
2. 保健管理の組織的推進、自立的な健康の保持・増進、健康相談活動の充実
3. 図書室の運営管理の充実
4. ホームページの更なる改良、SNS活用、近隣地域に向けた広報活動の充実
5. 共有文書等のデータ活用、個人データの管理徹底、業務軽減への方策
6. 校内・教育環境の更なる整備

【評価】

- ・他校の先生方の意見を参考にし、より良い教材の模索を進めた。コロナ禍の中で自他を理解した集団づくりについては、十分に実践はできなかった。
- ・学校医や保健所の指導を仰ぎ、健康観察、感染者発生時の情報収集と報告を迅速に行い、濃厚接触者の特定につなげた。感染予防対策の意識を高め学校全体で予防に取り組めた。
- ・図書教育においては、図書委員を中心にPOPを作成し活用している。令和4年度からは司書を派遣していただけるので専門的に整備が進むことを期待したい。
- ・広報では、新規委託業者との連携により学校案内・ポスター・ホームページの作成および運営を行うことができた。また、新規に公式インスタグラムを立ち上げ幅広い年齢層に応じた広報活動が実施できた。近隣地域への広報活動をより充実させたい。
- ・共有文書等のデータ活用は一定の成果があった。個人情報管理の徹底についても一定の成果はあった。
- ・iPad元年ということで、手探りの部分が大きかったが、様々な状況変化に対応しながらも、大きな問題点もなく運用することができた。
- ・体育館の空調設備の設置など、時代の変化に対応し、快適かつ安全に教育活動ができるように進めた。今後もこのような改善を計画的に進めたい。

3. 授業アンケート

授業アンケートは2学期に1回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。

令和3年度に関する学校関係者評価報告書

上宮太子高等学校
学校関係者評価委員会

1. 令和3年度自己評価結果について

令和3年度学校関係者評価は、新型コロナウイルス感染症防止への配慮から、学校評価関係者が一堂に会して評価を行う従来の方法を取れなかった昨年一昨年とは異なり、三年ぶりに対面で実施することができた。

今回使用した資料は以下の通りである。

1. 学校評価に関する規定
2. 『学校評価』について(職員用資料)
3. 令和3年度 学校評価に関する報告書
4. 令和3年度 授業アンケート分析

まず、令和3年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「礼節を重んじ、常識を身に着け、生きる力を養うこと。細やかな指導により学力面を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させること。これらの実現に向けて各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと。」を掲げ、その目標に向けて各部署それぞれが年間目標を作成し、実施できた内容と課題を10月の中間報告および年度末の報告において評価した。これらのまとめを上記3の報告書に掲載し、その内容が報告された。結果はあくまでも自己評価であるため、部署によっては若干の評価基準の差異が生じている面も存在する。

上記4の「授業アンケート分析」については、例年11月に全生徒を対象に実施している内容が報告され、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。各評価の年次変化を追うため質問項目は例年通りとしたが、生徒の主体的活動を促すべく、令和3年度より「情報収集」、「授業成果」の2項目を追加した。結果については概ね安心できるものであるが、工夫や改善を必要とする内容も見受けられる。ここで出た結果は、今後、担当者個人や教科会等で検討、活用されるものである。

2. 令和3年度 自己評価結果についての評価

「各部署の目標と評価」に関しては、各部署ともに細かく適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間で連携をとりコロナ禍という通常とは異なる状況下で、その都度うまく対応して行事などを円滑に進めることができているようだ。ただ、部署によっては継続的に改善すべき課題、検討中の課題、時代の流れに合わせて新たに考慮すべき課題も出てきているようなので、今後とも研鑽をしてより良い学校にしてもらいたい。コロナ禍の環境の中でオンライン授業に積極的に取り組み、ICTの活用も進んだことで、学校・保護者・生徒間の連絡も円滑に行える環境が整ってきていることはすばらしいと言える。

「授業アンケート」に関しては、先生の熱意や生徒の満足度などほとんどの項目で毎年高い水準を維持していることは評価できる。生徒の家庭学習面が伸びており、これはICTを活用した教材や課題の作成を工夫されている成果の現れだと思われる。今後とも、安心して受けることができる授業であると生徒に感じてもらえるように、これらの取り組みが継続されることを期待している。

進路指導関係では、具体的な数値目標を掲げて取り組まれていることは望ましいことと言える。その中で、大学合格実績の数値目標を達成できていることはたいへんすばらしい。一方1・2年生の模試偏差値が目標に達していない点については、学年が上がるにつれて数値は上昇していることもあり、今後の健闘を期待したい。生徒の主体性を育む教育の一環として探究活動に取り組まれている点について、具体的な内容がわからなかったが説明を聞いてよくわかった。各教科で学んだ知識を総合的に活かす力や自ら考え、様々な意見を持った人達と協働しながら課題を解決していく力など新しい学力が問われる時代になってきた中で、生徒の主体的活動を促し自主性を重んじていただいていることはたいへんありがたいことであり、今後ともこのような取り組みを推進してもらいたい。また英検と同じように数検や漢検も大学入試で利用できるようになってきているので学校全体の取り組みとして推奨してもらいたい。

生徒指導関係では、コロナ禍にあっても生徒会が中心となって各行事を実施されたことは評価できる。また、文房具、コンタクトレンズケース集めなどをはじめとするボランティア部の活動の本格化や、生徒会・風紀委員会の協力の下での挨拶活動など、生徒の自主性を伸ばす環境を用意していただいている部分にもよい印象を持つことができる。このように太子は変わってきていると感じるが、頭髮など校則の面ではもう少し柔軟な対応が必要ではないか。学校は生徒が社会に出て行くための模擬的体験の場であるが、その社会そのものが変様しており、個性がより尊重されるようになってきており、学校も社会の変化に対応していかなければならないとも考えられる。本日の評価委員会の場を通して、生徒たちの代表である生徒会役員と教職員代表との対談会などの機会を活用して、生徒たちが先ずは、人として必要な規律・現行のルールを遵守することや私学としての本校の精神を尊重した上

で、主体性をもってルール改訂の努力の過程を重ねていることを知ることができた。これからの社会に出て行くための体験の場となるべく、今後に期待したい。

各教科、各学年での指導面においては、各教科とも教授法の改善には関心が高く、特にロイロノートやパワーポイントなどICTを用いての授業が前進し効果が実感できている点、年々変化している大学入試問題に対して意識を高く持って研究・分析に取り組んでいる点、基本的な生活習慣の確立に継続的に取り組んでいる点などは評価できる。3年生には各コースとも最後まで諦めずに受験するよう指導されたことが、進路指導における目標達成につながっているのではないかと。今後とも目標達成を意識した指導の確立を目指していただきたい。

3. その他

以上の他に、保護者説明会で説明された内容は生徒にも伝えていただいているか、といったご質問や意見箱を設置してはどうか、というご意見もいただいた。BLENDやロイロノートをうまく活用して学校・保護者・生徒間の情報のやりとりを円滑にし、情報の共有が図られるよう取り組みを続けなければならない。また、ICTの活用がいろいろな効果をもたらしていることは評価できる反面、zoomを用いたweb授業などに代表されるように一方通行になりがちな点を心配されるご意見もいただいた。ICTを活用していく上で、人間教育の部分をどれだけ盛り込めるかという点にも留意しながら取り組んでいくべく、今後ともたゆまぬ努力を重ねていきたい。